

100名瀑踏破

そして世界3大名瀑へ

はじめは、仕事で写真を撮らなければならない状況になり、上手になりたい一心から一眼レフで練習を始めたことに遡る。

何ごとも基本が肝心と考え、通信教育の写真講座を受講した。

被写体のテーマを絞るといふ課題の中で、たまたま当時、日本の滝百選(緑の文明学会出版)「日本の名瀑」の写真集が目にとまり、元々、自然の山へ行きたいという思いもあり、被写体に滝を撮っていけば上達するだろうと考えた。

森には森林浴があるように滝にはマイナスイオン浴がある。大きな滝は躍動感があり、小さな滝には安らぎを感じる。

滝見行には、大自然の中に自分を置くことで、ストレス解消、気分転換、心の洗濯など最高の癒しが得られる不思議な魅力がある。

また、自然の恵みに感謝し、「滝を見て来てやった」ではなく「滝を見させてもらう」という感謝の念を持つことが、山から無事帰れるための儀式であると、常に心得としている。

日本の三大名瀑

袋田の滝



華厳の滝

那智の滝



[1] 丸神の滝 (埼玉県)

七六m



滝撮影開始の最初の一滝。
写真撮影の実力UPに被写体として滝を選んだ。今思えば選んでしまったと言うか、途中、百とはこんなに沢山なのかと思ってしまう。反面、滝の虜になってしまった。
両神山一、七二四mの麓、小森川に注いでいる閑静な滝で、観瀑台から眺めているとベスト森林浴を感じる。

一九九〇年 七月八日
総行程 四〇八km
計 四〇八km

〔2〕 袋田の滝 (茨城県)

袋田の滝は別名、四度の滝とも呼ばれ、四季折々の表情が楽しめる。



一九九〇年 八月二一日
行程 三二一 km
総計 七一九 km



一一〇 m

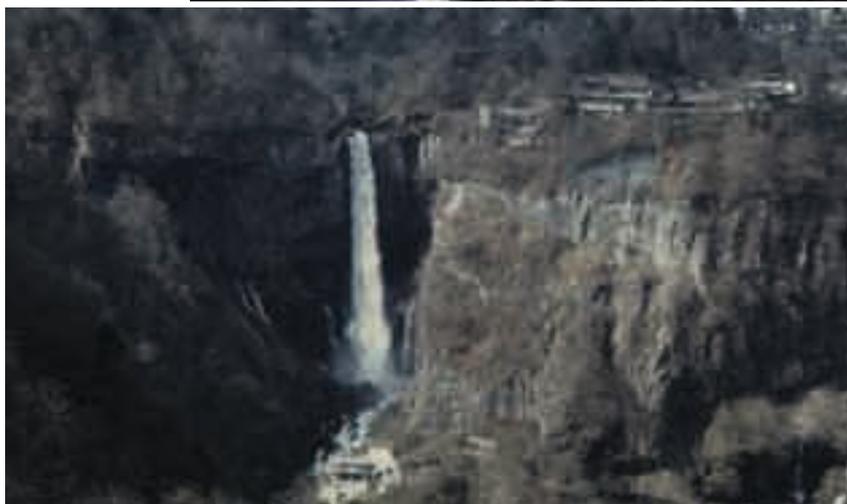
〔3〕 華厳の滝（栃木県）

九七m



第二いろは坂の展望台、明智平から見る景色はパノラマである。

一九九〇年 八月一四日
行程 六五一km
総計 一、三七〇km



〔4〕霧降の滝 (栃木県)

観瀑台の上から見る姿も美しいが、滝壺へ下り、岩を滑るように流れる水を見るのも、心和やかになる。

アカヤシオ(ツツジ科、栃木県の県花はヤシオツツジです)の花が咲く春も滝には風情がある。



一九九〇年 八月一四日
総行程 一、三七六 km

七五 m

〔5〕 布引の滝（兵庫県）

四三m



滝の流れを抱擁する岩壁は、陽光と採光、含水と乾燥により、藍色、淡青色、茶褐色、乳白色にもなり、変化に富んだ表情が楽しめる。



一九九〇年 九月二日
行程 一、〇八八km
総計 二、四六四km

〔6〕 払沢の滝 (東京都)

六〇m

滝の水が流れ落ちるさまが僧侶の払子を垂れた様に見えることからその名がついたという。

エメラルドグリーンの滝壺が神秘的だ。真夏の夜に開催される滝まつり(八月中旬、下旬)ではライトアップされ、幻想的な世界が広がる。また、冬の氷結した滝は自然の造形美をみせてくれる。

(広報東京都第五八六号日七
(一九九五)八・一 ふるさと
探訪73より)



一九九〇年 九月九日
総行程 一六三km
計 二、六二七km

〔7〕七つ釜五段の滝（山梨県）



五〇m



登路は溪谷歩道を、帰路は
軽便軌道跡を御利用下さいと
いう遊歩道に鉄道線路が残さ
れていた。
秋の紅葉はとくに、とくに
すばらしい。



一九九〇年一〇月二〇日

行程 一、四五〇km

総計 四、〇七七km



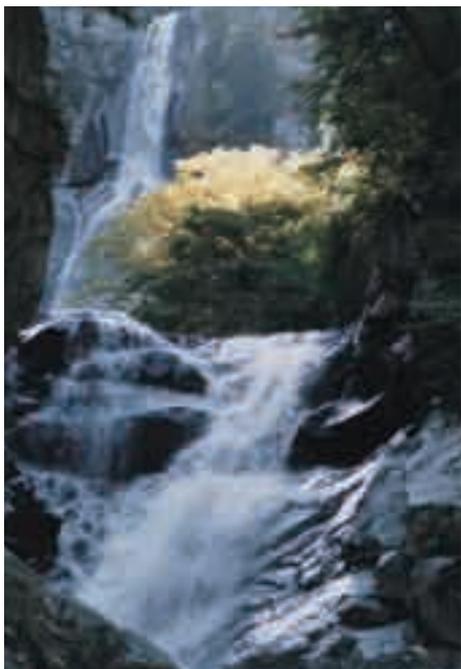
〔8〕 北精神ヶ滝（山梨県）

1111m

南アルプス鳳凰三山から流れ出して大武川へそそぐ石空川、この渓谷には大小七つの滝があり豊富な水量と鋭く切れ込んだ谷は蛇行を繰り返してごうごうとこだまを響かせている。

なかでも北精神ヶ滝はこの石空川渓谷を代表する滝で落

差二一メートルから一気に落ちる滝はまさに豪快である。そして冬の氷瀑もみごとである。いつかこの滝へのアプローチで崖崩れがあった。そこを通りかかった滝撮影関係者が遭遇し不帰の人となった。いつも思う、山は怖い。



一九九〇年一〇月二〇日
行程 二四km
総計 四、一〇一km

〔9〕 仙我滝（山梨県）

.....

三〇m



昇仙峡溪谷にかかる三段からなる名瀑。

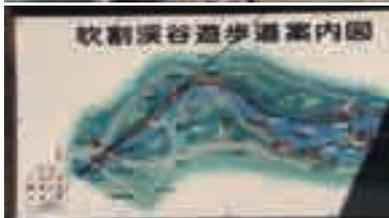
陽光の有無により右岸の表情が落ち着いた表情をなし、また明るい表情をなし、味わいのある、見ていても飽きない滝である。



一九九〇年一〇月二一日
行程 二九六km
総計 四、三九七km

〔10〕吹割の滝（群馬県）

滝の流れの水に足をつけながら、滝に吸い込まれそうになりながら見るのも迫力があるが、遊歩道の上より見る滝もすばらしい。

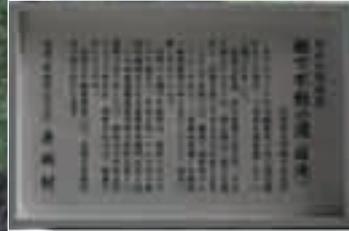


七m

一九九〇年一〇月二八日
総行程 三三七km
計 四、七三四km

〔11〕 棚下不動の滝 (群馬県)

三七m



一九九〇年 十一月四日
行程 二九五 km
総計 五、〇二九 km

石段下には棚下不動堂があり、岩窟の不動堂奥院には石造の不動明王が祀られているという滝の周囲は静寂さと仙境を感じさせる。

裏見の滝でもある。



〔12〕 箕面の滝（大阪府）



三三三 m



箕面市箕面国定公園内にあるこの滝は高さ三三メートルとそれ程ないが、紅葉の頃、

陽光の中、滝壺から見上げてみると時間の経つのを忘れる。

一九九〇年二月二三日
行程 一、〇六八 km
総計 六、〇九七 km

1990年度 行程表

観瀑日			100名瀑			工程km						
月	日	滝名	都道府県	市町・川名		飛行機	電車	船	車	徒歩	計	
1	7	8	丸神の滝	埼玉県	両神村、荒川水系				400	8	408	
2	8	11	袋田の滝	茨城県	大子町、久慈川				310	1	311	
3	8	14	華厳の滝	栃木県	日光市、大谷川				650	1	651	
4	8	〃	霧降の滝	栃木県	日光市、鬼怒川					6	6	
5	9	2	布引の滝	兵庫県	神戸市、生田川			1,080	0	8	1,088	
6	9	9	払沢の滝	東京都	桧原村、秋川溪谷				160	3	163	
7	10	20	七つ釜五段の滝	山梨県	三富村、西沢溪谷				1,440	10	1,450	
8	10	〃	北精進ヶ滝	山梨県	武川村、石空川溪谷					24	24	
9	10	21	仙我滝	山梨県	甲府市、昇仙峡				290	6	296	
10	10	28	吹割の滝	群馬県	利根村、片品川				330	7	337	
11	11	4	棚下不動の滝	群馬県	赤城村、利根川				290	5	295	
12	11	23	箕面の滝	大阪府	箕面市、箕面川			1,060	0	8	1,068	
					1990年度計		0	2,140	0	3,870	87	6,097
					累 計						6,097	

〔13〕 酒水の滝 (神奈川県)



六九m



六九メートル三段からなるこの滝は修験の滝でもある。
名水百選にも選ばれている。

一九九一年 三月一六日
行程 一八四km
総計 六、二八一km

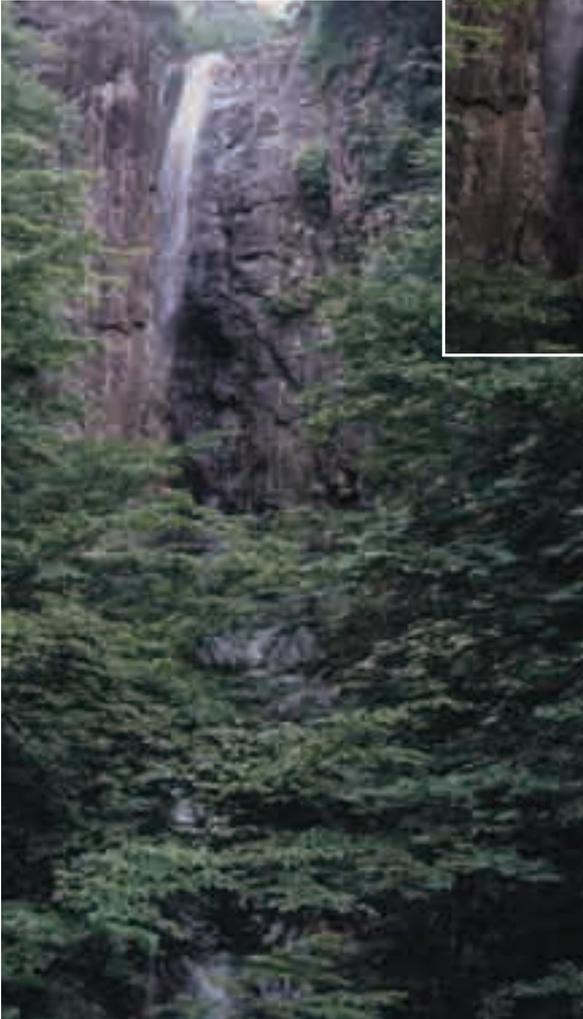
〔14〕早戸大滝（神奈川県）

五〇m



誰にも会わない早戸川を遡る。

滝の前には大岩壁があり、滝の全容は見る事ができなかった。



一九九一年 七月二〇日
行程 一九二km
総計 六、四七三km

〔15〕 三階の滝 (宮城県)

一八一m

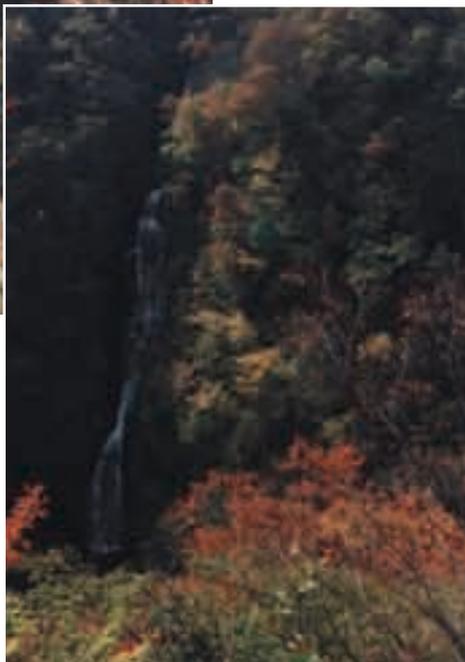
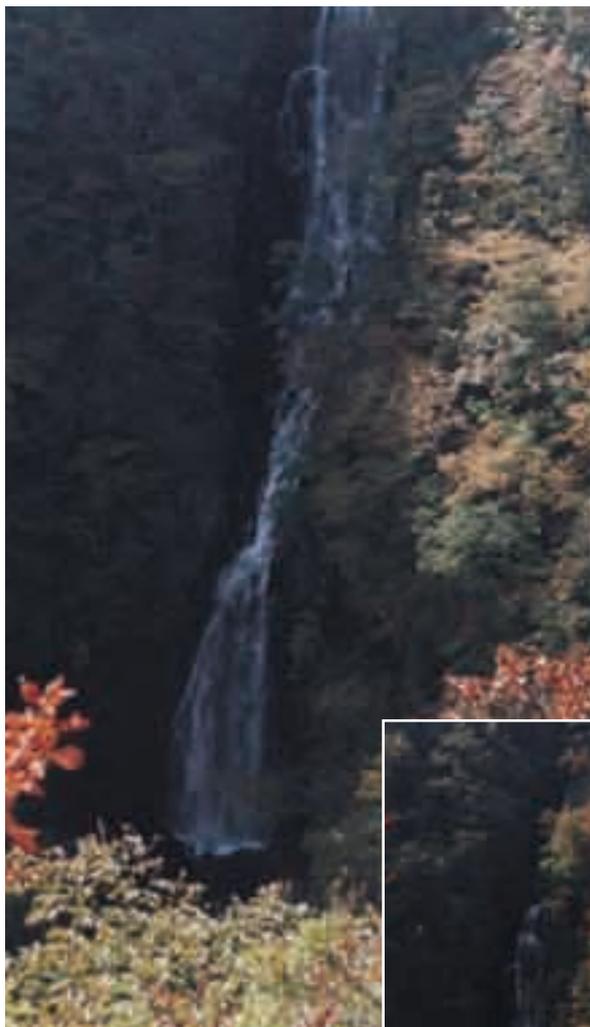
観瀑台から見る、断崖から落下する純白の流水は雄大である。

紅葉時見る滝は尚最高である。

一九九一年一〇月二四日

行程 七九一km

総計 七、二六四km

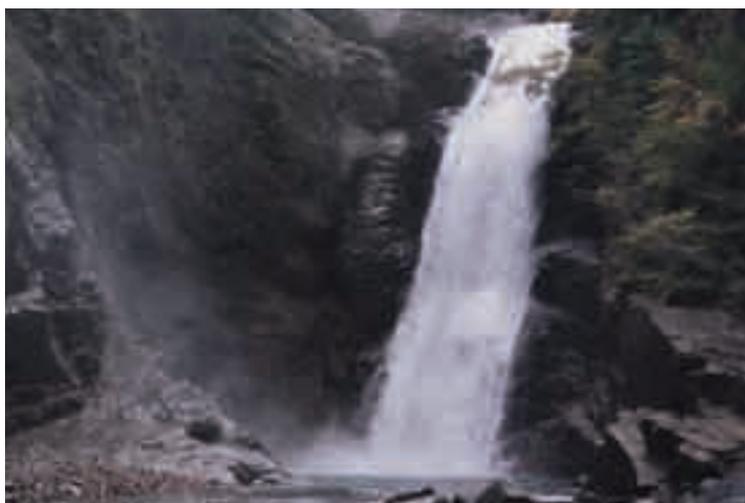


[16] 秋保大滝 (宮城県)

五五m



高さ五五mを一気に流れ落ちた水は滝壺で跳ね返され水煙となって上空に舞い上がる。滝壺で眺める雰囲気はマイナスイオン100%である。



一九九一年一〇月二四日
行程 三km
総計 七、二六七km

〔17〕 銚子ヶ滝 (福島県)

四八m

この滝の名称の由来は形が酒を入れる銚子に似ていることから名付けられた。

このアングルより左岸へ渡った方がもつと銚子の形が見られたかもしれない。



一九九一年一〇月二六日
行程 一五km
総計 七、二八二km

〔18〕 乙字ヶ滝 (福島県)

滝の形が乙字をなしていることから名付けられた。雄大な滝である。

一九九一年一〇月二六日
行程 二 km
総計 七、二八四 km



六 m

〔19〕 浄蓮の滝 (静岡県)

わずか二五mではあるが、豪快に滝壺に流れ落ちる様は風格がある。

滝壺の轟音のなか、釣竿を操る釣り人が印象的であった。

一九九一年 十一月二日
行程 六五四 km
総計 七、九三八 km



二五 m

〔20〕 阿寺の七滝 (愛知県)

六四 m

礫岩から流れる七段の滝は二番目と五番目の滝壺は甌穴となっている。

最下段の滝壺にいて、流れてくる滝を見ていると安らぎを与えてくれる。



一九九一年二月一日
 総行程 三三二 km
 八、二六〇 km

〔21〕常布の滝 (群馬県)

五〇m

滝壺へ行くにはガイドの同行が必要という秘境の滝。渋

いつか滝壺に行つてすばらしい光景を見させてもらおう。

峠草津探勝歩道から遠くに眺めた。

一九九一年 一月一日
行程 四四五km
総計 八、七〇五km



〔22〕 養老の滝 (岐阜県)

三〇m

この滝の水は万病を癒す薬の水という、そして若返りの水とも言う。

私も飲んで来た、若返ってしまった。

この滝の見える食堂にいたら、可愛い娘さんを連れた夫婦と出会った。

ご主人に「海外の滝を見た



ことがあるか」と問われた。多分イグアスの滝だったと思う。その滝は見事と言うほかになく、見に行ったら感激しますよ」と言われた。

日本の滝を廻り始めて二三個目であり、海外までは全く考えていなかった。

まさか海外の滝まで見に行くとは思ってもいなかった。

この手記を書いている今、日本百名瀑を廻り終わり、世界三大名瀑の二つを観瀑した。残る一つも見に行きたいと思っている。

一九九一年 二月七日

行程 八五三km

総計 九、五五八km



1991 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
13	3	16	酒水の滝	神奈川県	山北町、酒匂川				180	4	184
14	7	20	早戸大滝	神奈川県	津久井町、早戸川				170	22	192
15	10	24	三階の滝	宮城県	蔵王町、澄川溪谷				790	1	791
16	10	〃	秋保大滝	宮城県	仙台市、名取川					3	3
17	10	26	銚子ヶ滝	福島県	郡山市、石筵川					15	15
18	10	〃	乙字ヶ滝	福島県	須賀川市、阿武隈川					2	2
19	11	1	阿寺の七滝	愛知県	鳳来町、阿寺川				320	2	322
20	11	2	浄蓮の滝	静岡県	天城湯ヶ島町、狩野川				640	14	654
21	12	1	常布の滝	群馬県	草津町、大沢川				440	5	445
22	12	7	養老の滝	岐阜県	養老町、津屋川				850	3	853
					1991年度計	0	0	0	3,390	71	3,461
					累 計						9,558

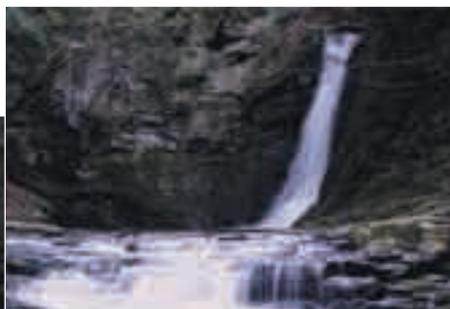
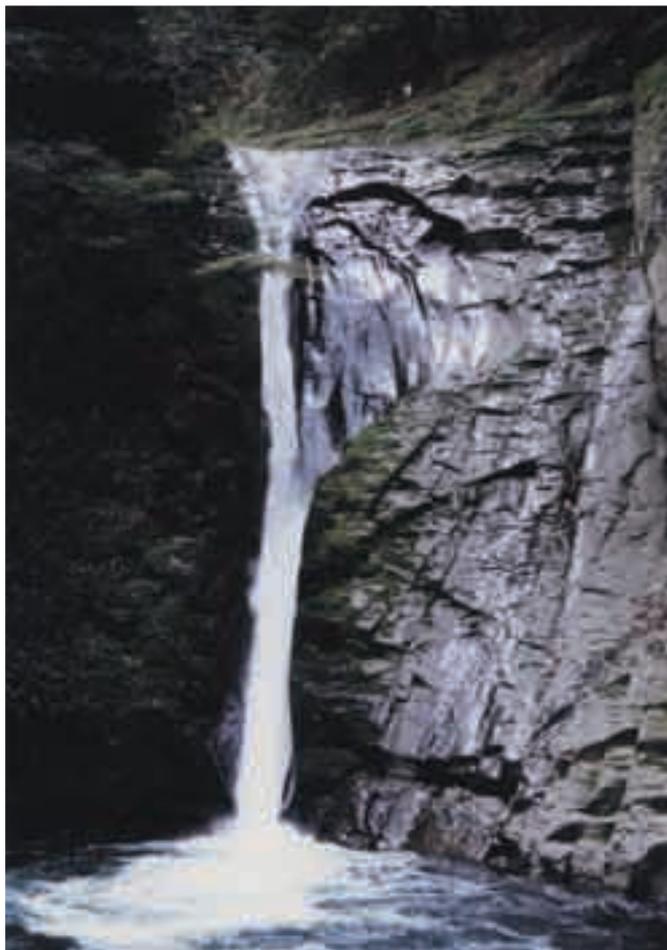
〔23〕 赤目四十八滝（三重県）

一五m

室生・赤目・青山国定公園
内にある全長約四km、往復約
三時間を要して探勝する滝々。
琵琶滝、布曳滝など、心落

ち着く滝が沢山あるが、私は
心癒される、荷担(にない)滝
が好きである。

一九九二年 四月一二日
行程 一、一三〇km
総計 一〇、六八八km



〔24〕 安倍の大滝（静岡県）

垂直に切り立った岩の上から落下する水が飛沫となり、付近に飛び散る様は雄大な景観である。

一九九二年 四月三〇日
行程 九三二 km
総計 一一、六二〇 km



八〇 m

〔25〕 白糸・音止めの滝（静岡県）

100m

百mの長さのU字形岩壁の
中腹から水が湧き流れ出る・
音止めの滝は轟き音も豪
快である。

潜流瀑はめずらしい滝だ。

白糸の滝の下流に位置す

一九九二年 四月三〇日
行程 三 km
総計 一、六三三 km



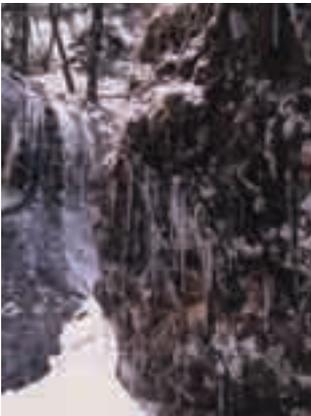
〔26〕 三本滝（長野県）

二〇〇m

滝をのぞむ中央の岩に不動
明王と摩利支天の石仏がまつ
られていたという。

の末端にできた滝である。
乗鞍岳へ向かっているとい
う登山者一人に出会う。相手は
冬山登山の完全装備であった。

私は朝早かったので雪がし
まっていると思い、ハイキン
グシューズだったような気がし
する。



一九九二年 五月一日
行程 六km
総計 一一、六二九km

〔27〕 田立の滝（長野県）

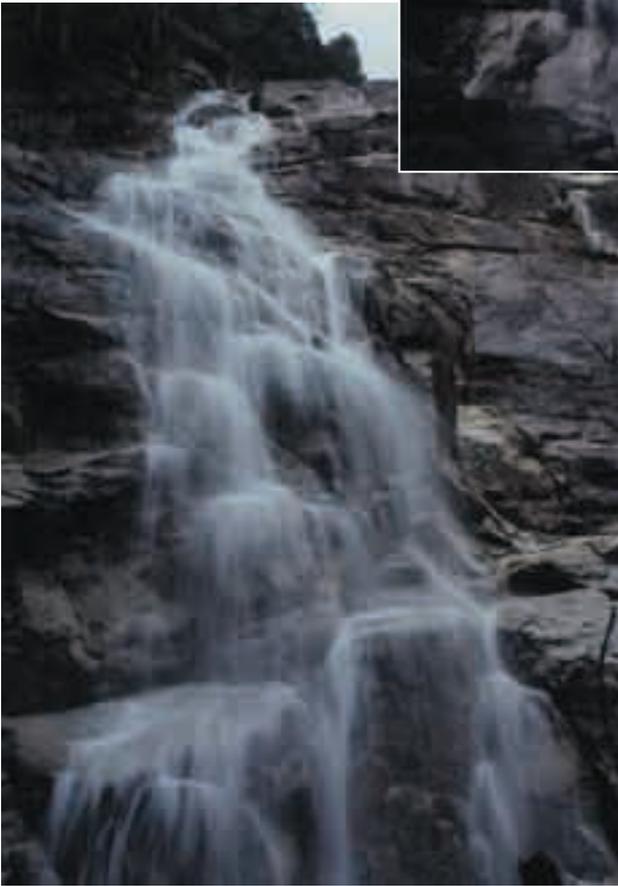
九六m



南木曾町大滝川にかかる田立の滝群は雄大な岩壁から流れ落ちる迫力のある滝である。らせん滝・霧ヶ滝など数ある滝の中で主瀑の天河滝が大きな岩の印象的な滝であった。

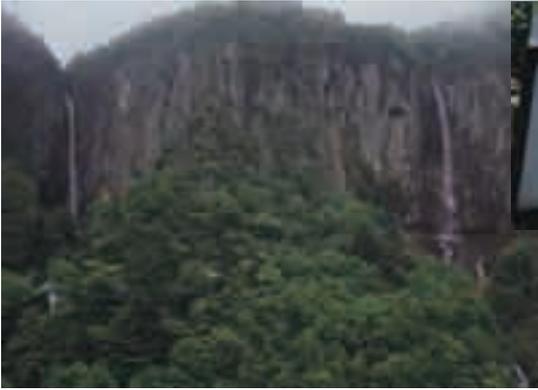
一九九二年 五月一日

行程 五km
総計 一、六三四km



〔28〕 米子大瀑布（長野県）

八五 m



水源は四阿山から発し米子川にかかる他に比類のない雄大な滝である。

写真帳の写真を目に入れないから現地に向いた。日本にもこういう所があったのだと感

心した。

往路、断崖の所を通る一本道、車を進めた。崖崩れでこの道が塞がれたらと思うと心細かった。

一九九二年 六月一二日
行程 一、〇八六 km
総計 一二、七二〇 km

〔29〕 苗名滝 (新潟県)

柱状節理を持つ玄武岩の断層から流れ出る四つの滝の一つである。

水量のある時は豪快で、少ない時では趣があり見事な滝である。

一九九二年 六月二二日
行程 五 km
総計 二二、七二五 km



五五 m

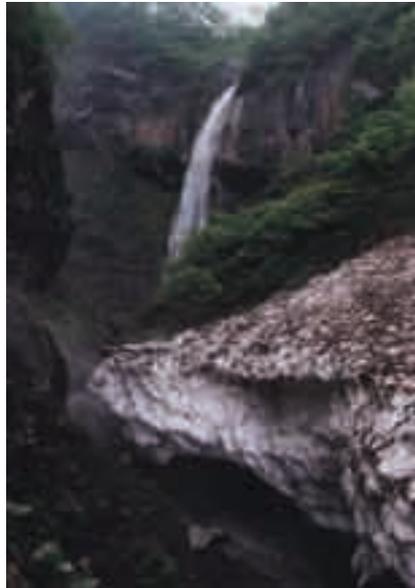
〔30〕 惣滝（新潟県）

新潟県妙高村燕温泉の奥まった所にある滝。

水量も多く、残雪との対比が印象的であった。



一九九二年 六月一三日
行程 三 km
総計 一、七二八 km



〔31〕 称名滝（富山県）

三五〇m



一九九二年 六月一四日
 行程 一二km
 総計 二二、七四〇km

中部山岳国立公園にある、
 落差三五〇mを誇る日本一の
 大滝。

観瀑の時期はやはり、雪解
 けや豪雨時に、称名滝の右側

に出現する、ハンノキ滝・落
 差五〇〇mが称名滝とV字形
 をなし同じ滝壺に流れ落ちる
 凄まじい姿の見られる頃であ
 る。



〔32〕 平湯大滝（岐阜県）

六四m

中部山岳国立公園の海拔一、四七五mにある味わいのある滝。

霧に包まれ、かすむ滝は神秘的で優雅である。



一九九二年 六月一五日
行程 三km
総計 一二、七四三km

〔33〕 滑川大滝（山形県）

八〇m



一九九二年 十一月一日
行程 八八四km
総計 一三、六二七km

秘境の湯治場・滑川温泉の
近くにある雄大な滝。

滝壺から見上げる姿はみごとである。

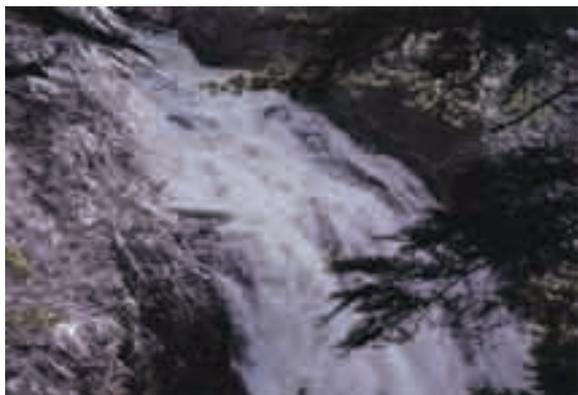
滝壺に行くには熊除けベルと笛が必携。

〔34〕 三条の滝 (福島県)

100m

尾瀬の水を集めて一気に落下する豪快な滝。

この滝の水量は日本一かな！



一九九二年 一月二日
行程 二八 km
総計 一三、六五五 km

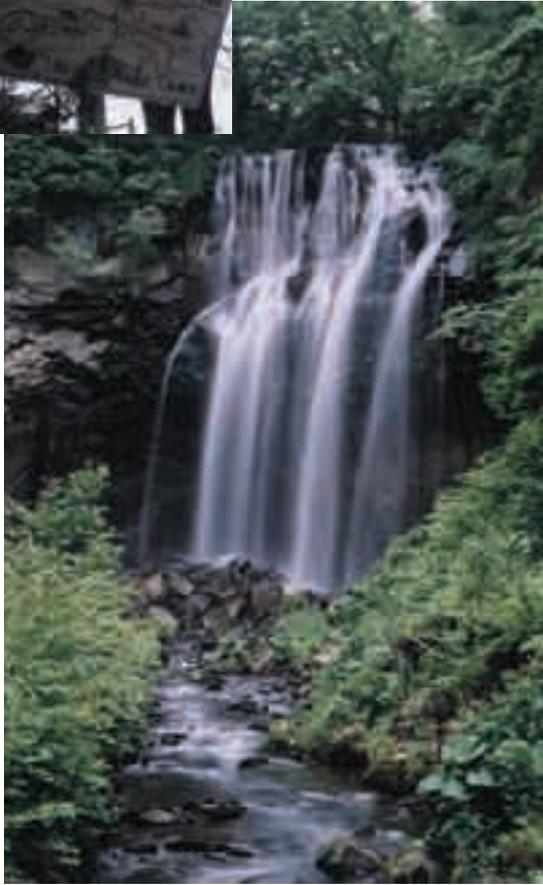
1992年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
23	4	12	赤目四十八滝	三重県	名張市、滝川				1,120	10	1,130
24	4	30	安倍の大滝	静岡県	静岡市、安倍川				920	12	932
25	4	〃	白糸・音止めの滝	静岡市	富士宮市、富士川					3	3
26	5	1	三本滝	長野県	安曇村、小大野川					6	6
27	5	〃	田立の滝	長野県	南木曾町、木曾川					5	5
28	6	12	米子大瀑布	長野県	須坂市、米子川				1,080	6	1,086
29	6	〃	苗名滝	新潟県	妙高高原町、関川					5	5
30	6	13	惣滝	新潟県	妙高村、大田切川					3	3
31	6	14	称名滝	富山県	立山町、称名町					12	12
32	6	15	平湯大滝	岐阜県	上宝村、乗鞍山系					3	3
33	11	1	滑川大滝	山形県	米沢市、大滝沢				880	4	884
34	11	2	三条の滝	福島県	檜枝岐村、只見川					28	28
					1992年度計	0	0	0	4,000	97	4,097
					累 計						13,655

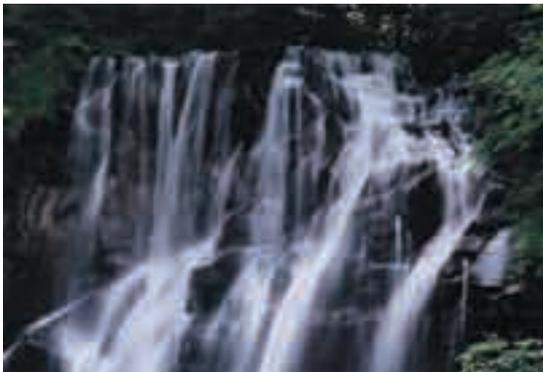
〔35〕 アシリベツの滝（北海道）



三〇m



2004.6.25 撮影



1995.5.24 撮影



札幌市、滝野すずらん丘陵公園の中にあり、公園を散策し、滝をゆっくり観賞と鑑賞するにはいつまでも見飽きることはない滝だ。

一九九五年五月二十四日に一回見て、二回目は二〇〇四

年六月二十五日に見に行った。滝は崩れ、後退していた。この美しい滝は滅びないで、いつまでも残っていて欲しいと感ずる。

一九九五年 五月二十四日
行程 一、六三二km
総計 一五、二八七km

〔36〕 安の滝 (秋田県)

九〇m

山奥深い またぎの里、悲恋ヤスの伝説がのこっている。 帰りの沢には岩魚が二匹、

黒い岩肌を筋状模様の流れ、 溪流の中に見つけることができた。

落ちていく姿は美しく、滝壺より見上げる景観はみごとである。



一九九五年 八月一七日
行程 一、五〇六km
総計 一六、七九三km

〔37〕 不動の滝 (岩手県)

朱色の渡橋から見る姿は優雅な雰囲気を感じ、深緑より湧き出でる姿は堂々たる滝だ。

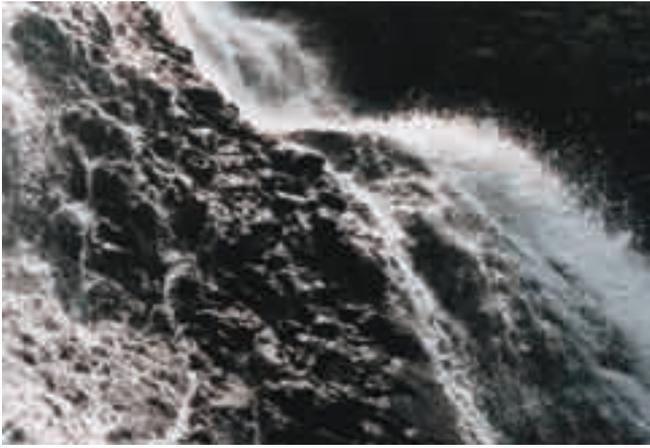


一九九五年 八月一八日
行程 一 km
総計 一六、七九四 km

一五 m

〔38〕 七滝（秋田県）

六〇m



黒々とした岩肌を七段に渡
つて流れ落ちる勇壮な滝であ
る。

一九九五年 八月一八日
行程 二km
総計 一六、七九六km

〔39〕 茶釜の滝 (秋田県)

100m

夜明島溪谷の沢を登り、山奥深い樹林の中にある落差百mの滝。

急峻な断崖を流れ落ちる姿は圧巻である。

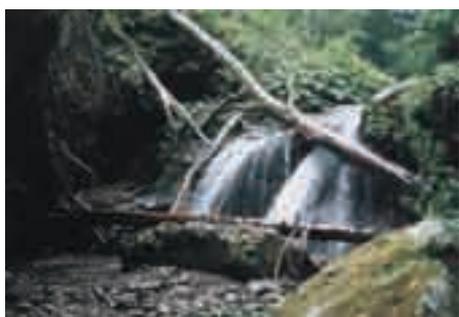
観瀑スペースは幅1m程の狭い尾根状で左右は崖、しかも坂地のため不安定。

近くの木にスリングで自分

を確保、三脚に付けたカメラもスリングで確保した。

滝から観瀑場所が近く、三五ミリのレンズでは全景を捉えられなかった。

広角レンズを車に置いてきた事を後悔した。



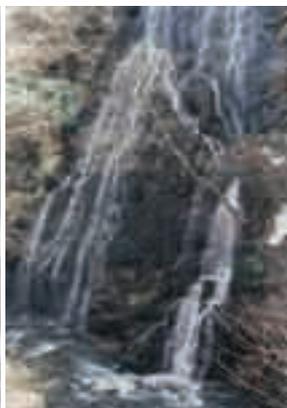
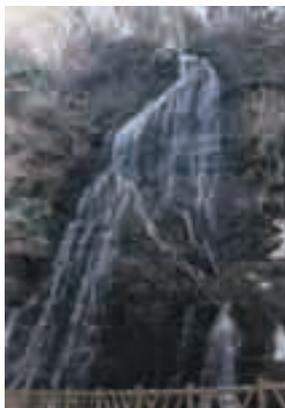
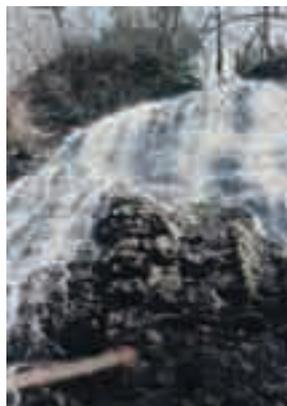
一九九五年 八月一九日
行程 一一km
総計 一六、八〇七km

1995 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
35	5	24	アシリベツの滝	北海道	札幌市すすらん公園	1,600	20		10	2	1,632
36	8	17	安の滝	秋田県	阿仁町、打当川				1,502	4	1,506
37	8	18	不動の滝	岩手県	安代町、不動川					1	1
38	8	〃	七滝	秋田県	小坂町、小坂川					2	2
39	8	19	茶釜の滝	秋田県	鹿角市、夜明島溪谷					11	11
					1995年度計	1,600	20	0	1,512	20	3,152
					累 計						16,807

〔40〕 龍双ヶ滝 (福井県)

雛段状を思わせる岩肌の流れる清水は趣があり美しい。
見ていると清水を手で触りながら雛壇上を上って行けそうに思い楽しさを感じる滝である。



六〇m

一九九六年 三月二一日
行程 一、三三六km
総計 一八、一四三km

〔41〕 阿弥陀ヶ滝 (岐阜県)

六〇m

白山信仰の霊場として修験者・滝参りの人々にぎわう、落差六〇mの美瀑である。

折れ滝・たまたま風によって押し流され見える滝の情景だが、一人旅をしていてこういうのを観られる事はうれしいものだ。



一九九六年 三月二一日
行程 一 km
総計 一八、一四四 km

〔42〕 根尾の滝 (岐阜県)

三三 m

残雪、岩肌を調和させる一条の滝は豪快さと優雅さを感じる。
朝五時起床、今回は案内板のある所でテント泊を行う。朝の気温はマイナス二度であった。滝までのアプローチは六本爪のアイゼンが有効に活用できた。



一九九六年 三月二三日
行程 一六 km
総計 一八、一六〇 km

〔43〕 八草の滝（和歌山県）



一三三 m



対岸に渡れず、滝つぼには行けなかった。
流水の少なさ、対照的な新緑と赤い岩肌が印象的であった。

一九九六年 四月二七日
行程 一、九九九 km
総計二〇、一五九 km

〔44〕 桑ノ木の滝（和歌山県）



二二
m



舗装された道路から細い橋を渡り六八〇Mの奥まった所、午後2時半ごろ滝に到着した、ちょうど滝壺に虹がかかり、新緑の明るさ、岸壁の暗さ、

滝の流れの眩しさが幻想的であつた。

舗装された道路から細い橋を渡り六八〇Mの奥まった所、午後2時半ごろ滝に到着した、ちょうど滝壺に虹がかかり、新緑の明るさ、岸壁の暗さ、

一九九六年 四月二七日
行程 三 km
総計二〇、一六二 km



〔45〕 那智の滝（和歌山県）

一三三 m



さすが、日本3大名瀑の一つ、滝の下、飛瀧神社から見上げる様はまさに天を仰ぐと

いう感じだ。滝に一番近い滝見台では飛沫浴が出る。

一九九六年 四月二八日
行程 三 km
総計 二〇、一六五 km

〔46〕 布引の滝（三重県）

五三m



わずかに傾いた一枚岩をま
さに布が滑るように流れる様
は滝の名のとおりである。
遠景はハガキの絵になるよ
うな好景であった。

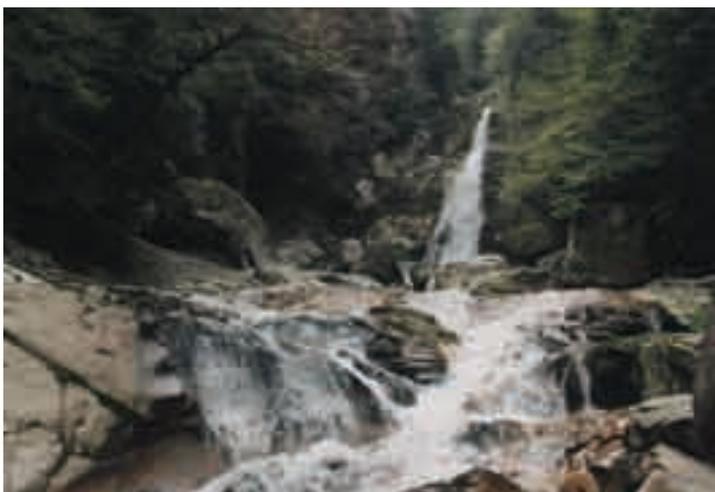
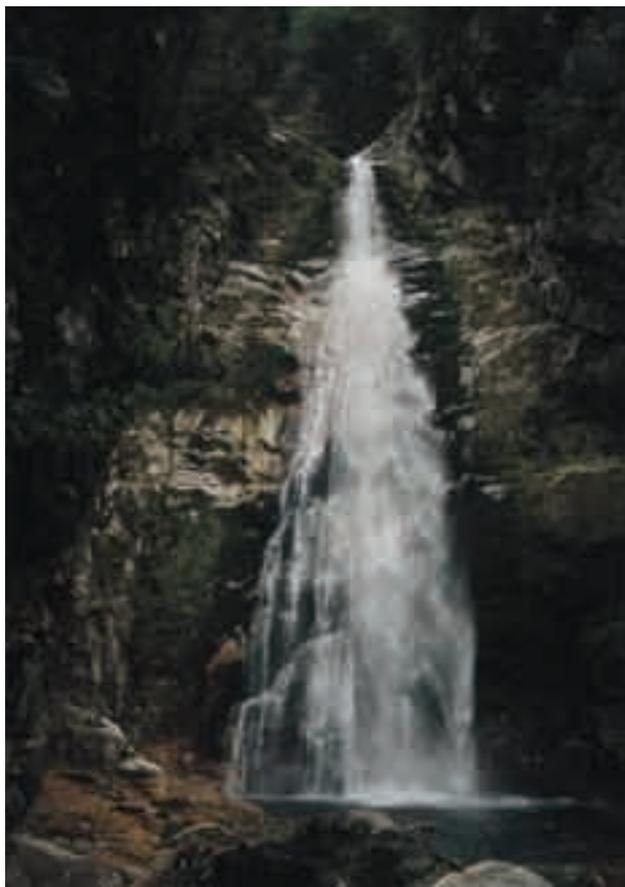


一九九六年 四月二八日
行程 一km
総計二〇、一六六km

〔47〕 笹の滝（奈良県）

三〇m

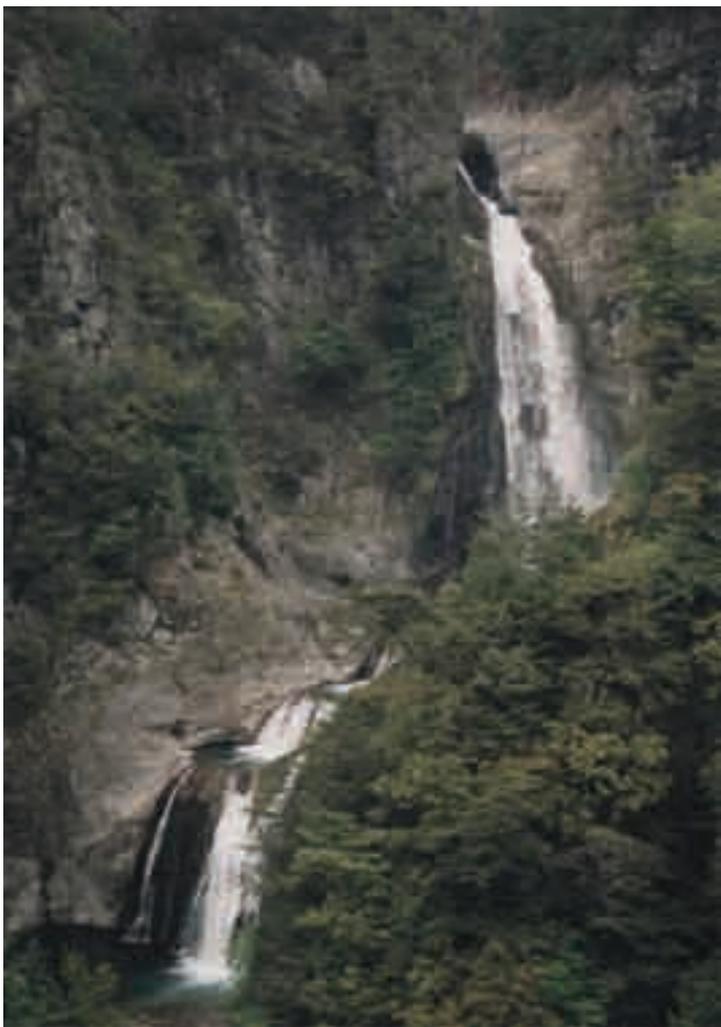
白い岩肌と新緑と水の流れ
は調和が取れてきれいな景観
であった。



一九九六年 四月二十九日
行程 二km
総計 二〇、一六八km

〔48〕 不動七重滝（奈良県）

一〇〇m



滝は自動車道より望む。
連続した4段の滝は水量も
みごとであり、滝つぼのエメ

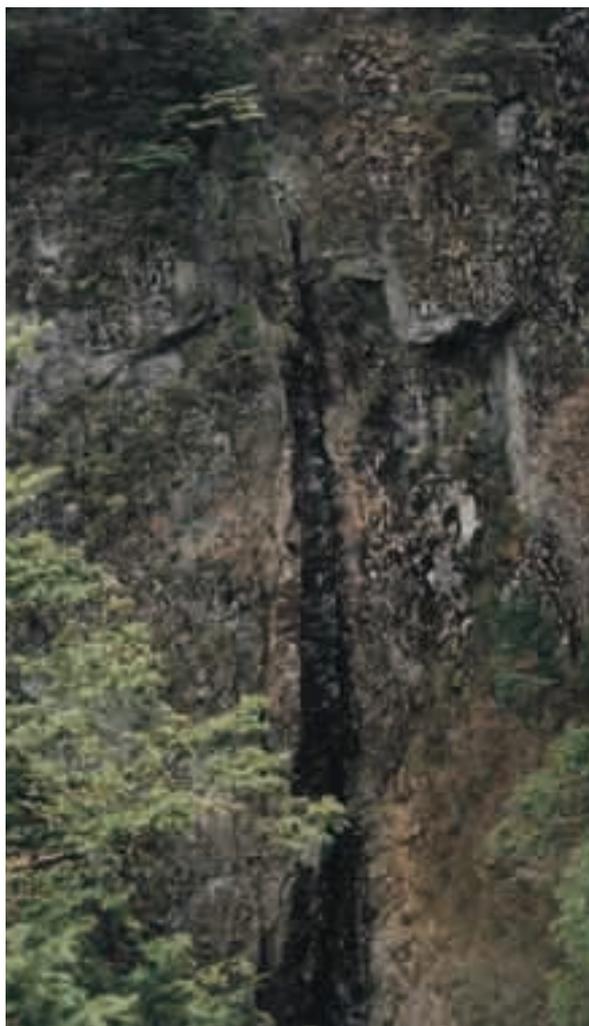
ラルドグリーンの水の色もみ
ごとであった。



一九九六年 四月二十九日
行程 二km
総計 二〇、一七〇km

〔49〕 双門の滝（奈良県）

七〇m



垂直に近い鉄ばしごを登り、岩場を登り、写真帳の滝を目に浮かべながら前進した。それにしても、ここもきつい山道だ。



二万五千分の一の地図を携帯し、滝へのスタートを開始する。弥山川・白川八丁へ降りたが川には水が流れていなかった。河原の下を流れてい

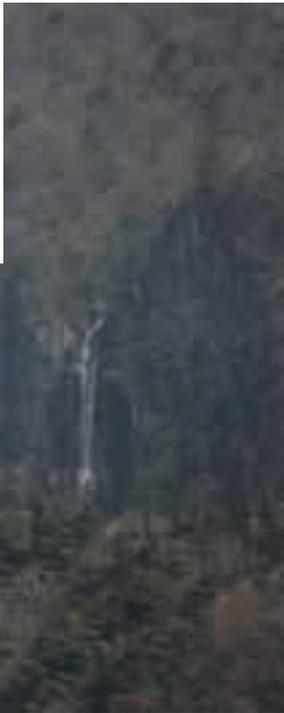
るようだ。上り道に入る、橋は流されて対岸へは徒渉を余儀なくされたり、鉄製の橋は崖崩れにあい、押し流されて大木に止まっている。



一九九六年 四月三〇日
行程 八km
総計二〇、一七八km

〔50〕 中の滝（奈良県）

二五〇m



滝へは急峻な山道のため最短の展望台である、「大蛇峠」からの遠望となった。滝垂へ行っていない、あるいは行くことが困難で行っていない箇所が何ヶ所かある。行きたいものである。

一九九六年 五月二日

行程 三km

総計二〇、一八一km

〔51〕 七つ釜滝（三重県）

一五〇m



観瀑小屋からは3釜しか見
られないのが残念であるが、
スケールの大きい雄大な段瀑
である。



一九九六年 五月三日
行程 一三km
総計二〇、一九四km

〔52〕 寂地峡五竜の滝（山口県）



二〇〇m



瀧の上流から竜頭の滝・竜門の滝・白竜の滝・登竜の滝・竜尾の滝と流れ落ちるが一堂に会して見ることが出来ない。竜頭の滝と竜門の滝はみごとに流線美を見せていた。

一九九六年一〇月二二日

行程 一、七四五km

総計 二一、九三九km

〔53〕 鈴ヶ滝 (新潟県)

紅葉の名残の中、雨上がりの滝は推量が多く写真で見るとよりも豪快に感じた。



五五m

一九九六年 十一月二日
行程 二、三、一、一
総計 二四、二五〇 km

〔54〕 七ツ滝（山形県）



九〇m



滝のある山の反対の山より
観瀑をする。

雄大な山をバックに流れ落ちる姿は、落ち着いた霧囲気をかもしだしている。



一九九六年 十一月三日
行程 三 km
総計 二四、二五 km

〔55〕 白糸の滝 (山形県)

一三三 m

普通、滝には滝壺があり、流れて川へ辿り着く。この滝は滝壺がなく、落ちた水は地下をくぐって川の中央に流れ

て行くと言う。

最上川の船下りから見ると

は風情があるだろう。



一九九六年 一月三日
行程 一四 km
総計 二四、二五四 km

〔56〕 法体の滝 (秋田県)

河床の神秘的な岩肌と末広がりに白い布をたれ下げたように流れる美しい滝だ。

夜、ライトアップしていた時があつたという。幻想的であろうと想像する。



一九九六年 十一月三日
行程 三
総計 二四、二五七 km

1996年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
40	3	21	龍双ヶ滝	福井県	池田町、九頭竜川水系				1,332	4	1,336
41	3	〃	阿弥陀ヶ滝	岐阜県	白鳥町、長良川					1	1
42	3	23	根尾の滝	岐阜県	小坂町、御岳水系					16	16
43	4	27	八草の滝	和歌山県	日置川町、日置川				1,997	2	1,999
44	4	〃	桑ノ木の滝	和歌山県	新宮市、熊野川水系					3	3
45	4	28	那智の滝	和歌山県	那智勝浦町、那智川					3	3
46	4	〃	布引の滝	三重県	紀和町、熊野川水系					1	1
47	4	29	笹の滝	奈良県	十津川村、熊野川水系					2	2
48	4	〃	不動七重滝	奈良県	下北山村、熊野川水系					2	2
49	4	30	双門の滝	奈良県	天川村、弥山川					8	8
50	5	2	中の滝	奈良県	上北山村、東ノ川					3	3
51	5	3	七つ釜滝	三重県	宮川村、宮川水系					13	13
52	10	22	寂地峡五竜の滝	山口県	錦町、寂地山系		1,600		140	5	1,745
53	11	2	鈴ヶ滝	新潟県	朝日村、高根川				2,307	4	2,311
54	11	3	七ツ滝	山形県	朝日村、東大鳥川					3	3
55	11	〃	白糸の滝	山形県	戸沢村、最上川					1	1
56	11	〃	法体の滝	秋田県	鳥海町、鳥海山水系					3	3
					1996年度計	0	1,600	0	5,776	74	7,450
					累 計						24,257

[57] 原不動滝 (兵庫県)

奥播磨に光るユートピア波
賀町の優雅な名瀑である。



八八m

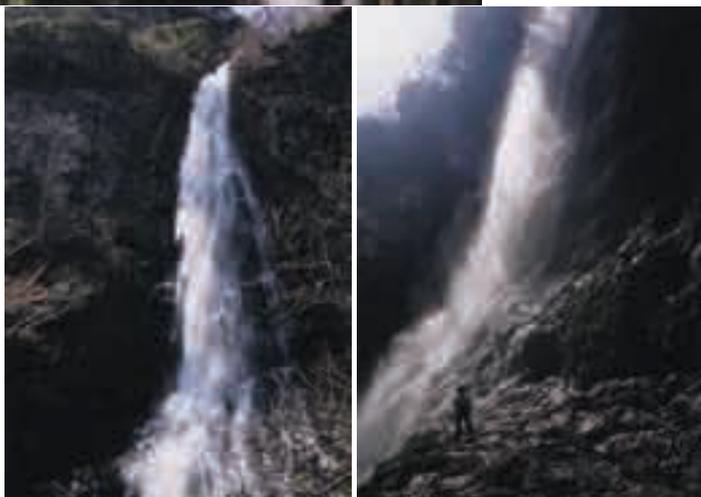
一九九八年 四月四日
行程 二、〇二五km
総計 二六、二八二km

〔58〕 天滝（兵庫県）

九八m

NHK朝のドラマ「ふたり
つ子」のタイトルバックに登
場した滝である。流れ落ち
る中間地点では、滝の近くま
で行ける。天に届くほどのス

ケールの大きい滝である。
その場で上と下を見渡すと、
いつもながら、「自然は大きく、
人間は小さいものだな」と感
じた。



一九九八年 四月四日
行程 三 km
総計 二六、二八五 km

〔59〕 猿尾滝 (兵庫県)



滝の右岸に不動尊が祀られている。樹林の茂る木々の間から一気に流れ落ちるみごとな滝である。

一九九八年 四月四日
行程 二km
総計 二六、二八七km

六〇m

〔60〕 雨滝（鳥取県）

落口から一気に落下する様
は豪快である。

滝流は滝壺で跳ね返されず、

水煙は滝壺を這うように消え
ていく、不思議な滝でもあつ
た。

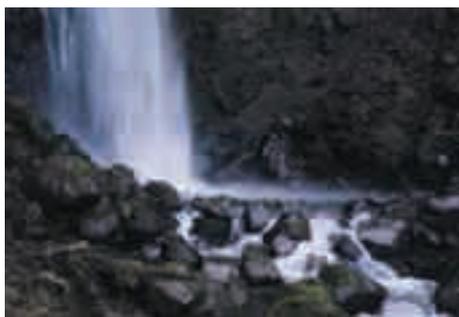
一九九八年

四月五日

行程

四 km

総計 二六、二九一 km



四〇 m

〔61〕 神庭の滝 (岡山県)

一〇m

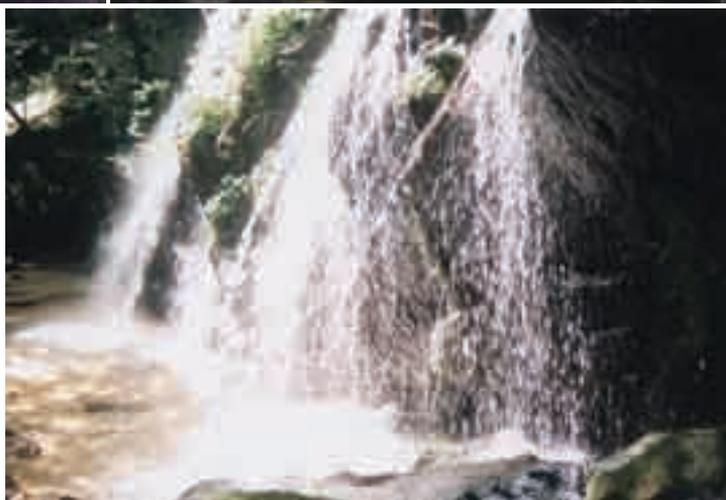
深い森の中、落差一〇Mの中国地方随一の大きな滝。親指を突き出しているような、堅固な岩石を分け入るように流れる様は印象的な滝である。



一九九八年 四月五日
行程 三 km
総計 二六、二九四 km

〔62〕 金引の滝（京都府）

四〇m



宮津市宮津湾・天橋立の近く。

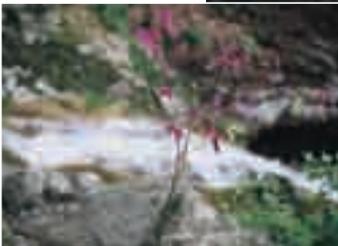
滝は末広がり流れ味わいを感じさせる滝である。



一九九八年 四月三〇日
行程 一、六五四km
総計 二七、九四八km

〔63〕 八ツ淵の滝 (滋賀県)

琵琶湖の近く高島町鴨川にかかる八つの淵は、貴船淵には趣を感じ、大・小摺鉢には安らぎを感じる滝である。



一九九八年 五月一日
行程 六 km
総計 二七、九五四 km

〔64〕 姥ヶ滝 (石川県)

..... 一一一 m



山の中腹より岩肌に沿って
白い絹糸のように流れる様は、
姥の髪様を思わせる、秀麗な
滝である。

一九九八年 五月二日
行程 八 km
総計 二七、九六二 km

1998 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
57	4	4	原不動滝	兵庫県	波賀町、揖保川水系		1,400		622	3	2,025
58	4	"	天滝	兵庫県	大屋町、大屋川					3	3
59	4	"	猿尾滝	兵庫県	村岡町、矢田川水系					2	2
60	4	5	雨滝	鳥取県	国府町、千代川					4	4
61	4	"	神庭の滝	岡山県	勝山町、神庭川					3	3
62	4	30	金引の滝	京都府	宮津市、金引山麓				1,652	2	1,654
63	5	1	八ツ淵の滝	滋賀県	高島町、鴨川					6	6
64	5	2	姥ヶ滝	石川県	吉野谷村、尾添川					8	8
					1998年度計	0	1,400	0	2,274	31	3,705
					累 計						27,962



[65] くろくまの滝 (青森県)

八五m



午後三時に自宅をスタート、滝入り口まで、車両走行距離は七七三km、その到着はもちろん翌日でお昼の一二時ころ、休憩をいれて二一時間はさす

がに乗りごたえはあった。滝壺から見る、落差八五mの見上げた滝は雄大であった。夕方は暗門の滝付近にある日帰り温泉「アクアグリーン

ビレッジANMON」にて入湯、駐車場の車内にて夕食を取った。

一九九九年 八月八日
行程 一、六五二km
総計 二九、六一四km

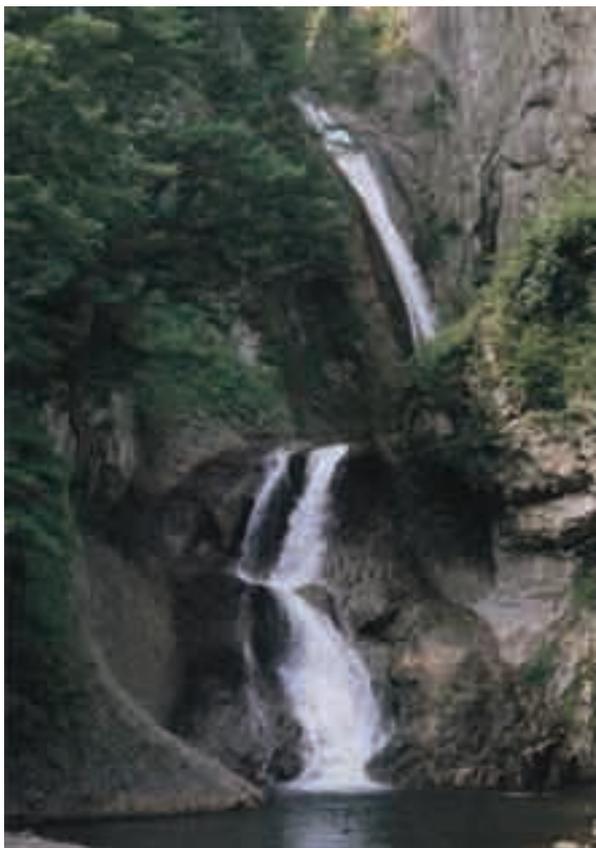
〔66〕 松見の滝 (青森県)

九〇m

この滝は、徒歩でのアプローチはどこよりも長いであろう。気温は暑く、飲み水は底をつき脱水症状になってしまった。途中、帰途である若いカップルに出会った。女性

は滝壺をスッポンポンで泳いで来た、涼しかったと話していた。

滝は三段からなり、水量も多くみごとであった。



一九九九年 八月九日
行程 一六km
総計 二九、六三〇km

1999 年度 行程表

観瀑日	100名瀑				工程km						
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
65	8	8	くろくまの滝	青森県	鱒ヶ沢町、赤石溪流				1,650	2	1,652
66	8	9	松見の滝	青森県	十和田湖町、黄瀬川					16	16
					1999年度計	0	0	0	1,650	18	1,668
					累 計						29,630



〔67〕マリユドウウの滝（沖縄県）

10m



石垣島から高速艇で西表島まで行き、滝までは河を船で溯った。まさに日本のジャングルで、特に夜間の行動は無事が保障されないという雰囲気があった。イリオモテヤマネコにはもちろんお目にかかれず残念、看板の紹介をみて我慢。



二〇〇〇年 八月一四日
行程 二、一一二km
総計 三、七四二km

〔68〕 龍門滝 (鹿児島県)

四六m

その昔、唐人が「漢土の龍門の瀑を見るがごとし」と賞したこと、この名がある。と伝えられているこの滝は、高さ四六メートルあり、岩肌を見せながら滝つぼにめがけて落ちるしぶきは豪快である。



二〇〇〇年 八月一五日
行程 一、二三七km
総計 三、九七九km

〔69〕 関之尾滝（宮崎県）

一八m



滝の上流の河床は何千もの甌穴群から成り、その甌穴の間を庄内川の水は遊歩道から水面を見せずに流れる。

落ち口に立ち、上流の甌穴をぬって流れて来た水が滝壺に落ちて行く様は、溪谷の永い歴史を感じ、神秘的である。

二〇〇〇年 八月一日
行程 二km
総計 三三、九八一km

〔70〕 鹿目の滝（熊本県）

三六m



球磨川の支流、鹿目川にあるこの滝は落差
三六メートルで、屏風のひだを極細かくした様
な柱状節理の岩壁を豪快に流れる。

流水の多い時、滝幅はみごとな姿を見せると
言う。この時は右岸からだけの流身であったが、
滝壺でのマイナスイオン浴は心が癒された。

二〇〇〇年 八月一六日

行程 三〇二km

総計 三三、二八三km

〔71〕 大川の滝 (鹿児島県)



石碑に書かれた、緑の文明

学会・グリーンネットサンス・

緑の地球防衛基金は日本の滝

百選の主催団体であり、平成

2年日本の滝百選記念誌「日

本の名瀑」の写真集を発行さ

れた。

地元では おおこのたき

と呼んでいる。

同島、屋久島にある千尋の

滝と同様に水量の多い豪快で

見事な滝である。

滝壺の岩に座りマイナスイ

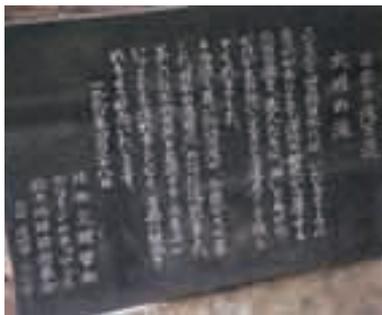
オンを浴びながらのジューズ

の味はまた格別であった。

二〇〇〇年 八月一六日

行程 一、三八三km

総計 三四、六六六km



八八m

2000 年度 行程表

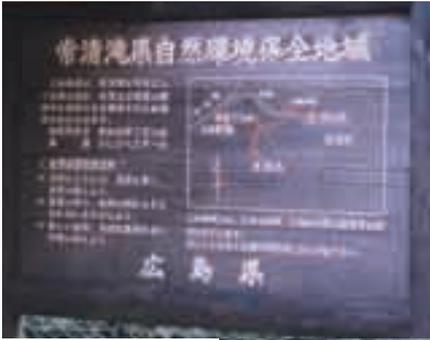
観瀑日			100名瀑			工程km					
月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計	
67	8 14	マリユドゥウの滝	沖縄県	西表島竹富町	2,000		90	16	6	2,112	
68	8 15	龍門滝	鹿児島県	加治木町、網掛川	1,000			236	1	1,237	
69	8 //	関之尾滝	宮崎県	都城市、庄内川					2	2	
70	8 16	鹿目の滝	熊本県	人吉市、球磨川支流	300				2	302	
71	8 16	大川の滝	鹿児島県	屋久町、屋久島	1,300			80	3	1,383	
				2000年度計	4,600	0	90	332	14	5,036	
				累 計						34,666	



〔72〕 常清滝 (広島県)



一二六m



作木川の支流にかかる落差126Mのこの滝は3段からなる段瀑である。深い緑の樹林から覗かせる褐色の岩壁は流水の白と調和が取れ、岩肌を縫

うように、線を引くように流れる様はみごとなまでの造形芸術を思わせるが、ここはまさに自然の芸術である。

二〇〇一年 八月一二日
行程 二、一四〇km
総計 三六、八〇六km

〔73〕 龍頭八重滝 (島根県)

小鳥のさえずりが聞こえる山峡の清流。春の新緑・夏の清流・秋の紅葉・冬の雪景色と豊かな自然が優しく包み込んでくれる。八汐滝・八塩滝・姫滝・姥滝・河鹿滝・紅葉滝・滝尻滝・猿飛滝の千姿万態の滝が集まり一大渓谷美をなす(掛合町 八重滝案内図より) 龍頭ヶ滝は裏見の滝でもある。



二〇〇一年 八月二日
 行程 三 km
 総計 三六、八〇九 km

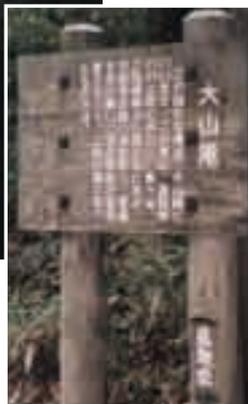
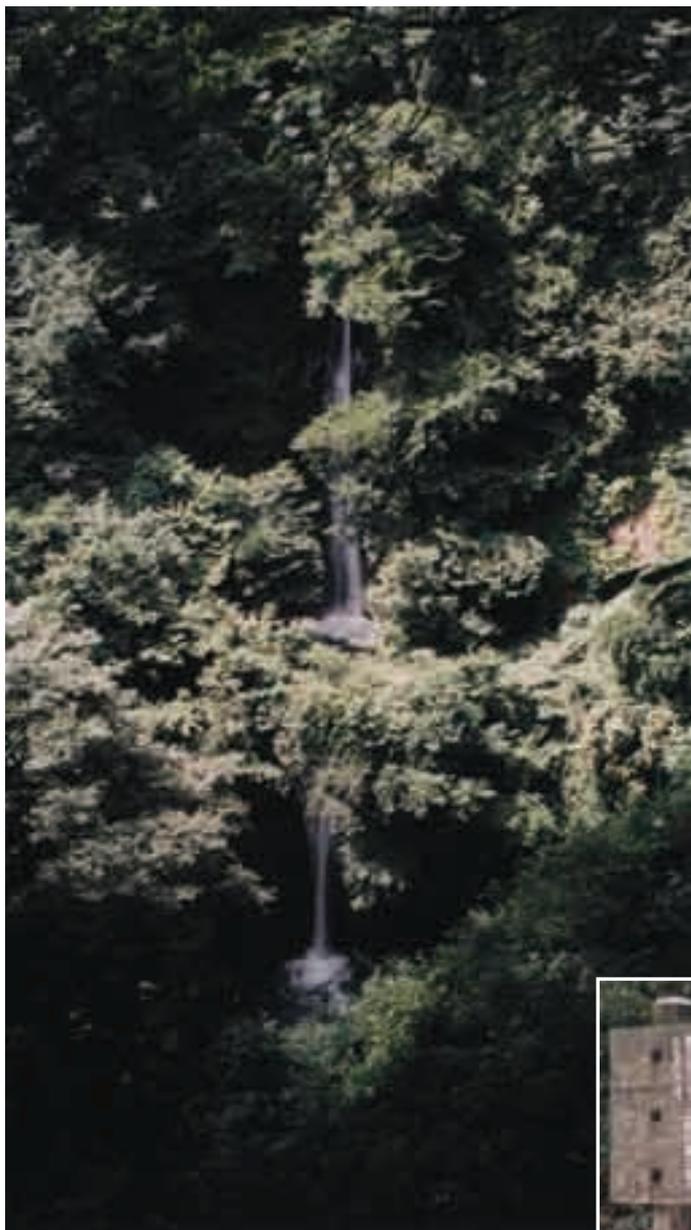
四〇 m

〔74〕 大山滝 (鳥取県)

東伯町 加勢蛇川の上流にあり、2段の滝である。地獄谷の深い谷を彫り、人を滝壺

に寄せつけない。やむなく対岸の中段からの展望となった。

二〇〇一年 八月一三日
行程 一〇 km
総計 三六、八一九 km

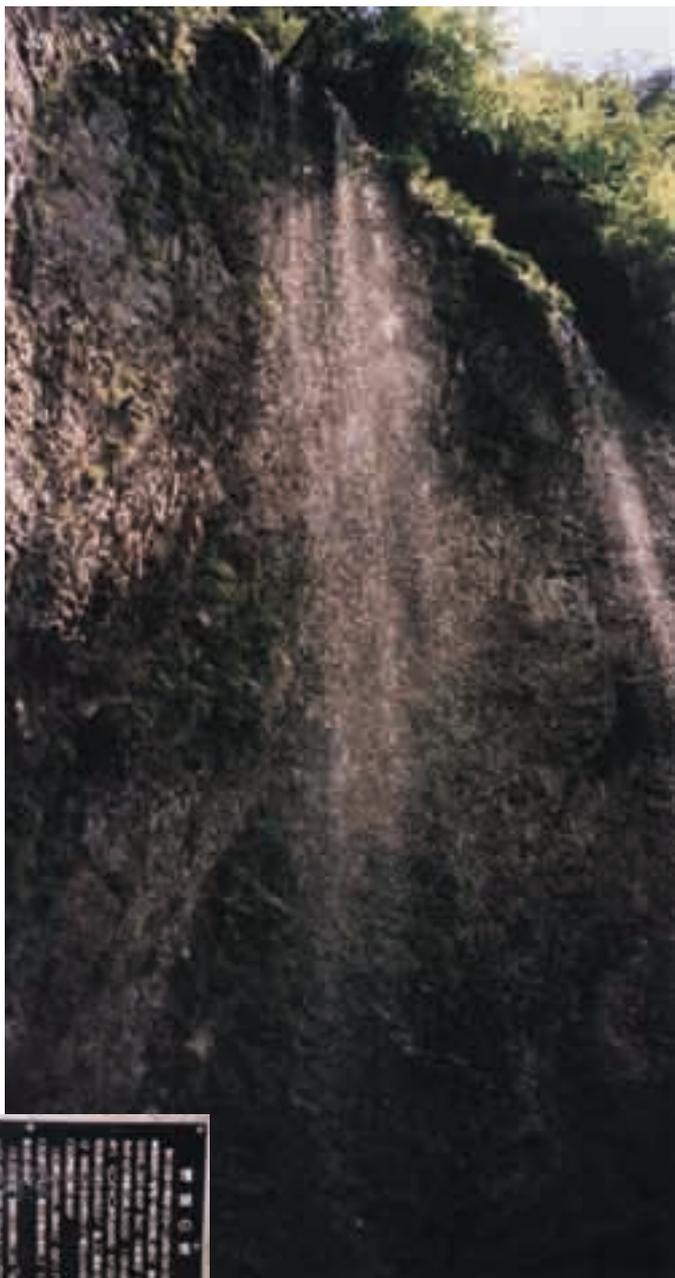


三七 m

〔75〕 壇鏡の滝（島根県）



五〇m



隠岐島 都万村の壇鏡神社
の近くにある、二筋からなる
滝である。

の絶壁の岩肌が印象深かった。
滝の水は全国名水百選の水で
もある。

今回は水量が少なく五〇M

二〇〇一年 八月一四日

行程 一九〇km

総計三七、〇〇九km

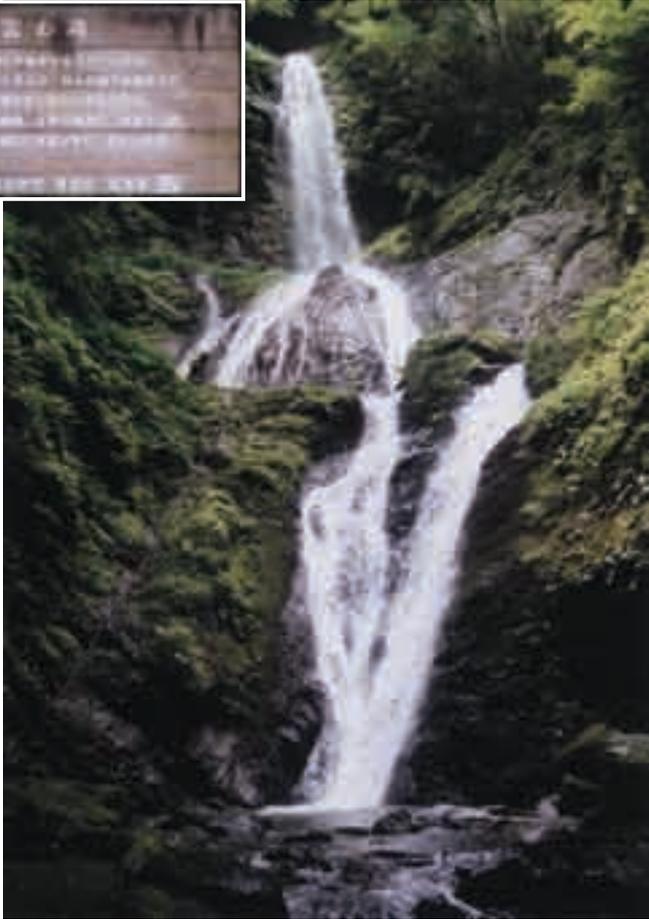


2001 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
72	8	12	常清滝	広島県	作木村、作木川				2,135	5	2,140
73	8	〃	龍頭八重滝	島根県	掛合町、烏屋丸山系					3	3
74	8	13	大山滝	鳥取県	東伯町、加勢蛇川					10	10
75	8	14	壇鏡の滝	島根県	都万村、那久川			160		30	190
					2001年度計	0	0	160	2,135	48	2,343
					累 計						37,009

〔76〕 雨乞の滝 (徳島県)

四五m



この滝では昔から日照りが続いたときには村人が鉦や太鼓をたたいて、踊りを奉納して雨乞いをしたという。

右側の雌滝もみごとであるが、左側の雄滝の滝壺に落ちる流水の飛沫は岩と調和が取れて美しかった。

二〇〇二年 八月一日
行程 二、五四七km
総計 三九、五五六km

〔77〕 大釜の滝 (徳島県)

国道一九三号線に隣接するこの滝は落差二〇M 淵の深さは約十五Mあり、滝壺の底には大蛇が住むという伝説が

残されている。

階段を降り、広大な溪谷に包まれながら河原に座り、エメラルドグリーン滝壺をな

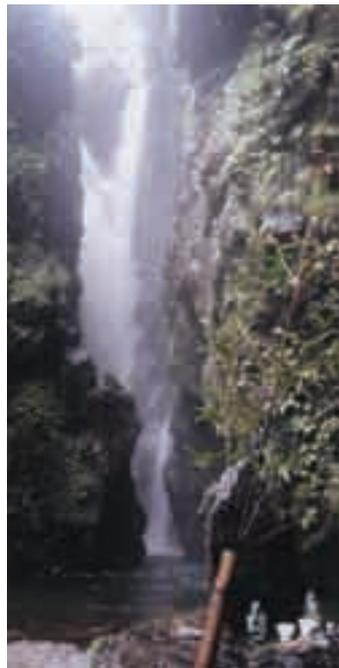
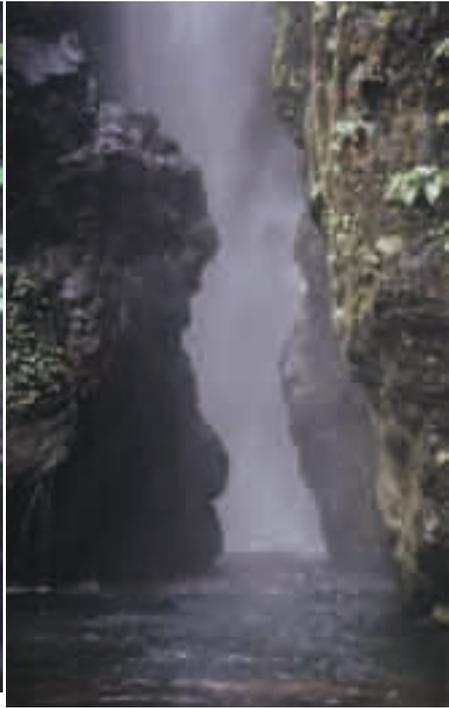
がめていると大自然の胎内に包まれている様で不思議にもゆつたりとした、落ち着いた趣を感じさせる滝である。



二〇〇二年 八月一日
行程 一 km
総計 三九、五五七 km

〔78〕 轟九十九滝（徳島県）

五八m



海部川の源流、王餘魚谷川に位置し、滝へは轟本瀧神社の赤い鳥居をくぐる。

滝壺に入ると両サイドには岩壁がせまり、その奥に大きな岩を分けて流れる落差五八Mの滝が見えてくる。滝飛沫の量は濃霧状態を思わせる。

この滝壺に神輿が入るとい
う、その神事は一度見てみた
い。



二〇〇二年 八月一日
行程 二km
総計 三九、五五九km

〔79〕轟の滝（高知県）



物部川水系の日比原川の
渓谷に姿を現すこの滝は落差
七八Mで三段に流れる。

のナイアガラの滝の水煙を思
い起こさせた。

この滝の凄さは下段の滝流
が正面の岩に打ち砕かれ、天
空に舞い上がる水滴群は、あ

二〇〇二年 八月二二日

行程 四 km

総計 三九、五六三 km



八二 m

〔80〕 龍王の滝（高知県）

一六m



吉野川水系にあり、県立自

然公園・梶ヶ森の七合目に位置する、落差二〇Mではあるが、岩壁の岩の色と苔むした岩、樹々の緑と変則的な倒木

の対比が神秘的でもあり、水量豊かで豪快に流れ落ちる姿はみごとな滝であった。



二〇〇二年 八月一二日
行程 三 km
総計 三九、五六六 km

〔81〕 雪輪の滝 (愛媛県)

八〇m

一枚岩を水が輪を作るように流れるこの滝は、地元の人はこちらを滝滑りするという。

当日も女性群は滝壺の近くで滝滑りをしていた、私は滝の上から挑戦してみた。

途中の小さな岩の出っ張り
でジャンプをし、ジャージのお尻に穴を開け、スピードが
出過ぎて滝壺を通り過ぎ、あ
わや対岸にぶつかるところだ
った。

駐車場で車のドアを開けて
着替えをしていたら、この付
近に生息している猿の軍団が、
車の中に侵入し、目の前で食
料を持って行かれた。
猿くん、スパゲティ用の

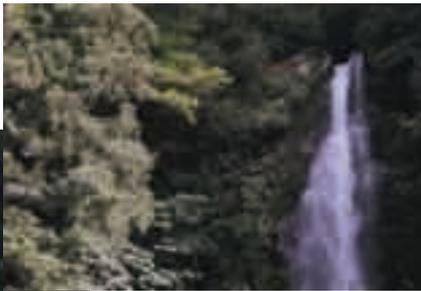
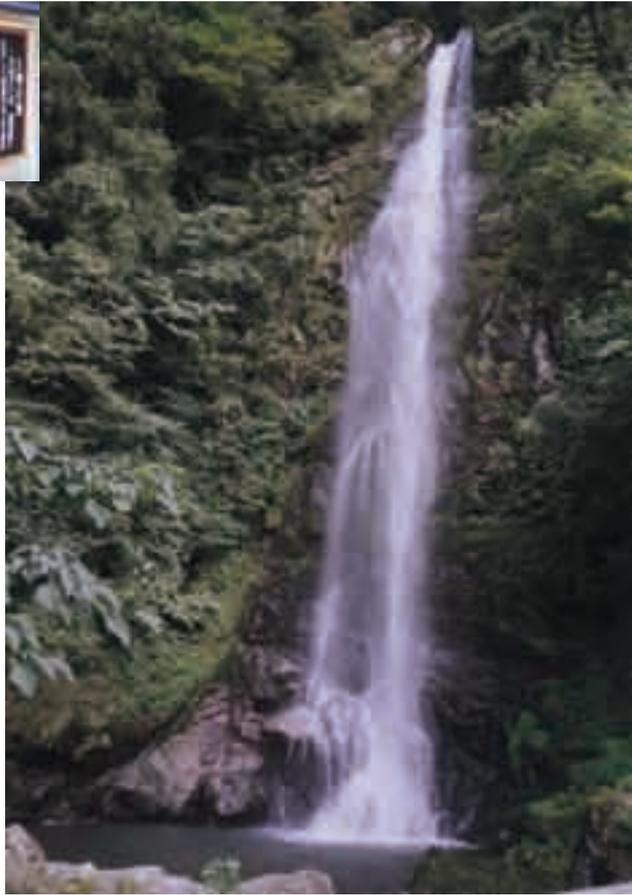
ピーマン、袋に入っていたあ
めは美味しかったですか！



二〇〇二年 八月三日
行程 四km
総計 三九、五七〇km

〔82〕 大樽の滝（高知県）

三三 m



土佐湾へと辿る、仁淀川水系にかかる

この滝は落差三三Mである。

ゆったりと流れ落ちる姿は、滝を包む

樹林の緑と調和がとれ、心が落ち着き、

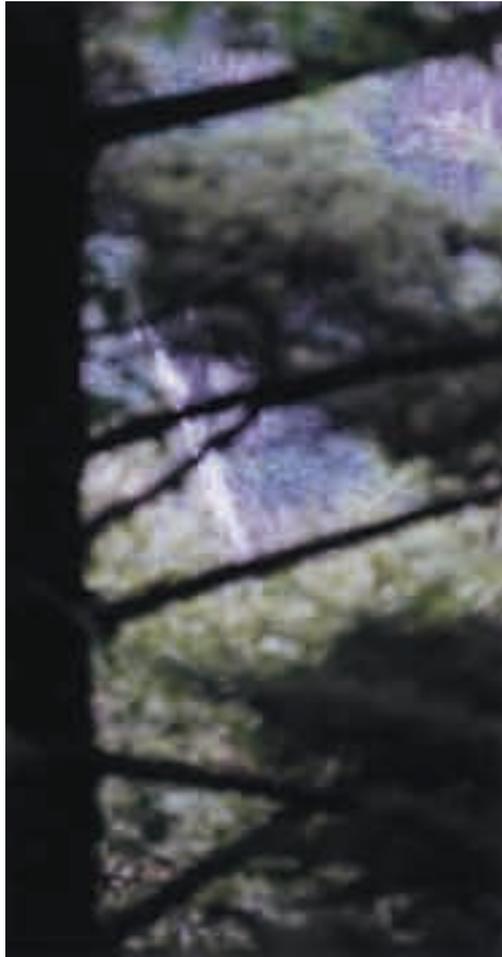
和やかさを感じさせる滝である。

二〇〇二年 八月一三日
行程 三 km
総計 三九、五七三 km



〔83〕 御来光の滝（愛媛県）

七二m



この滝を目指した日は大雨に会い登山口にある面河茶屋の前の車の中で丸一日足止めをくった。

その翌日、天候が回復への兆しがでてきた。大雨で入山禁止の案内があるも、車での走行距離で片道一〇〇〇kmを

また出直しもままならないと思ひ、目的地へ出発した。

大雨の後のため、沢登りのルートは止め、登山道を選んだ。滝の轟音が聞こえ目的地近くへ来たが、沢への降り口が見つからず、急坂の大雨のかぶった笹藪を分けて下るこ

とは危険である。獣道すら見つける事もできず、登山道の脇にある愛大小屋の近くをうろうろしてしまった。霧の合間に遠く滝を見ることが出来たが、あわや、滝音を聞くのみの滝見行となるところだった。



二〇〇二年 八月一五日
行程 五km
総計 三九、五七八km

2002 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
76	8	11	雨乞の滝	徳島県	神山町、吉野川上流				2,545	2	2,547
77	8	〃	大釜の滝	徳島県	木沢村、那賀川水系					1	1
78	8	〃	轟九十九滝	徳島県	海南町、海部川源流					2	2
79	8	12	轟の滝	高知県	香北町、物部川水系					4	4
80	8	〃	龍王の滝	高知県	大豊町、吉野川水系					3	3
81	8	13	雪輪の滝	愛媛県	松野町、滑床溪谷					4	4
82	8	〃	大樽の滝	高知県	越智町、仁淀川水系					3	3
83	8	15	御来光の滝	愛媛県	面河村、面河溪					5	5
					2002年度計	0	0	0	2,545	24	2,569
					累 計						39,578

〔84〕 観音の滝 (佐賀県)



七山耶馬溪の樹林の間から姿を現し、豪快な水量は滝壺へと踊り落ちる。躍動を感じる滝である。

生目観音が祀られており、ここの淵の水で目を洗うと眼

病が治ると伝えられている。広沢局開眼四百周年記念の碑が建てられていた。

二〇〇三年 四月二六日
行程 三、〇四六 km
総計 四二、六二四 km



四五 m

〔85〕 見帰りの滝 (佐賀県)

100m

どこからこの流れが始まっているのかと思うほど、遙か

彼方から流れてくる落差一〇

り滝壺へと辿っていた。

非来てみたい。

〇Mの分岐瀑である。

滝壺にはあちらこちらにア

ジサイの木があった。

アジサイの花が咲く頃には

当日は水量が多く、左岸の

アジサイの花が咲く頃には

二〇〇三年 四月二十六日
行程 五 km
総計 四二、六二九 km



〔86〕 四十三万滝（熊本県）



朝もやの陽さしを受けた
溪流を背景とした滝は風情
がある。

優雅で、ゆったりで滝の
流れを見ていると心が落ち
着き、一日の躍動感がみな
ぎる感じだ。

二〇〇三年 四月二七日

行程 四 km

総計 四二、六三三 km

〔87〕 数鹿流ヶ滝（熊本県）

六〇m



阿蘇連山のふもと、阿蘇郡長陽村にあるこの滝は数頭の鹿が流れ落ちたことから、その名が付いたという。

落差六〇Mの滝は水量が多

く、滝壺の岩壁と樹々の緑と調和が取れ、ゆったりと構える滝壺へ豪快に落ちて行つた。展望所には徳富蘆花文学遺跡の記念標識があつた。

二〇〇三年 四月二七日

行程 一 km

総計 四二、六三四 km



〔88〕 梅檀轟の滝（熊本県）

七〇m

球磨川の支流、川辺川の秘境にある落差七〇Mの滝である。

地元では滝のことを轟（とどろ）と呼んでいる。滝名も地元では 梅檀轟で止まるよ

うで梅檀轟の滝は梅檀の滝の滝となるようだ。対岸の観瀑台からの眺めとなったが、大樹林の中で優雅さを漂わせていた。



二〇〇三年 四月二七日
行程 二km
総計 四二、六三六km

〔89〕 真名井の滝（宮崎県）

一七m



宮崎県北西部 高千穂峡・五ヶ瀬川に流れ落ちる落差十七Mの神秘的な滝は、ボートの上からゆっくりと見上げることが出来る。

両岸のそそり立つ岩壁の間にボートを浮かべ、水面にやさしく流れ落ちる姿は高千穂峡ならではの味わえない風情である。

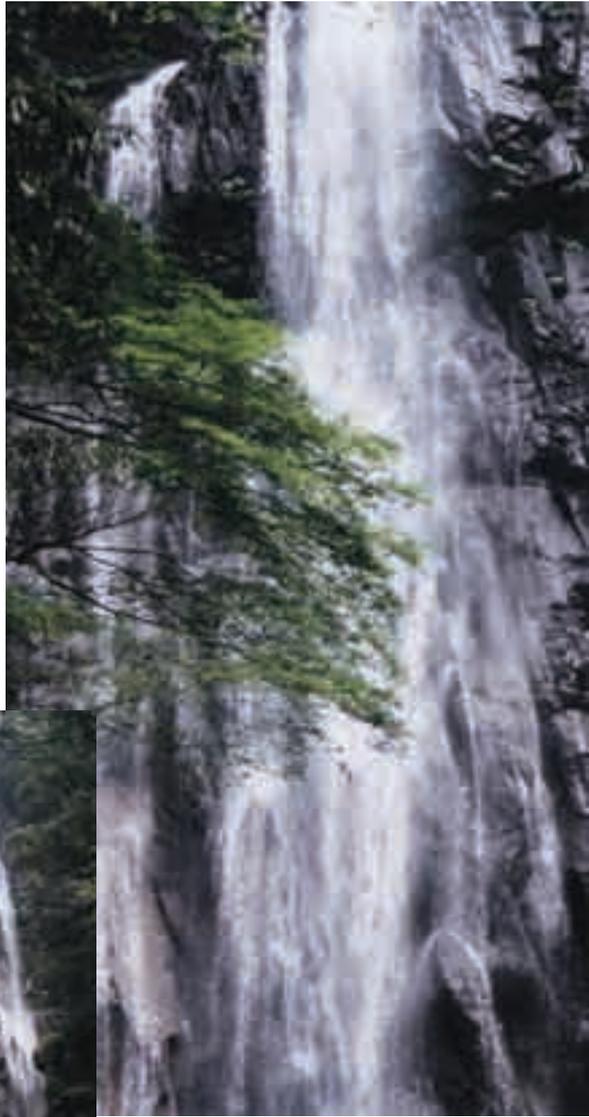
滝の水は地中を潜流した地下水が湧水となって池をつくり、その

池の一ヶ所が滝の落口となる。貯水量によつて堰を解放するときがあり、ちょうどそのタイミングに出会えた。その大量の流水に目を奪われ、水面をたたく音は静粛さを一変した。

二〇〇三年 四月二八日
行程 一km
総計 四二・六三七km

〔90〕 矢研の滝 (宮崎県)

七三m



大和朝廷を開いたとされる

神武天皇がこの滝で矢を研いだという言い伝えからこの名が付いたという。尾鈴山系・尾鈴県立自然公園内を流れる名貫川に位置し、落差七三M

の滝である。

流れる白い姿・樹々の緑・岩壁の褐色と滝壺から流れ込む池を取り込み、画面配置を四等分に分けて見る滝は、見事なまでの美景である。



二〇〇三年 四月二八日
行程 四km
総計 四二、六四一km

〔91〕 行滕の滝 (宮崎県)

七七m



行滕山の麓、大瀬川の支流にある七七Mの滝である。袴の前面に腰から脚にかけて覆う行滕に似ていることから、この名が付いたという。

原生林の樹々に包まれた大岩壁から流れる姿は雄大である。この滝の上から落ちた人がいたと言う。岩壁の途中にある岩棚に止まり助かった話は九死に一生ものである。

二〇〇三年 四月二十九日

行程 四km

総計 四二、六四五km

〔92〕 原尻の滝（大分県）



110m

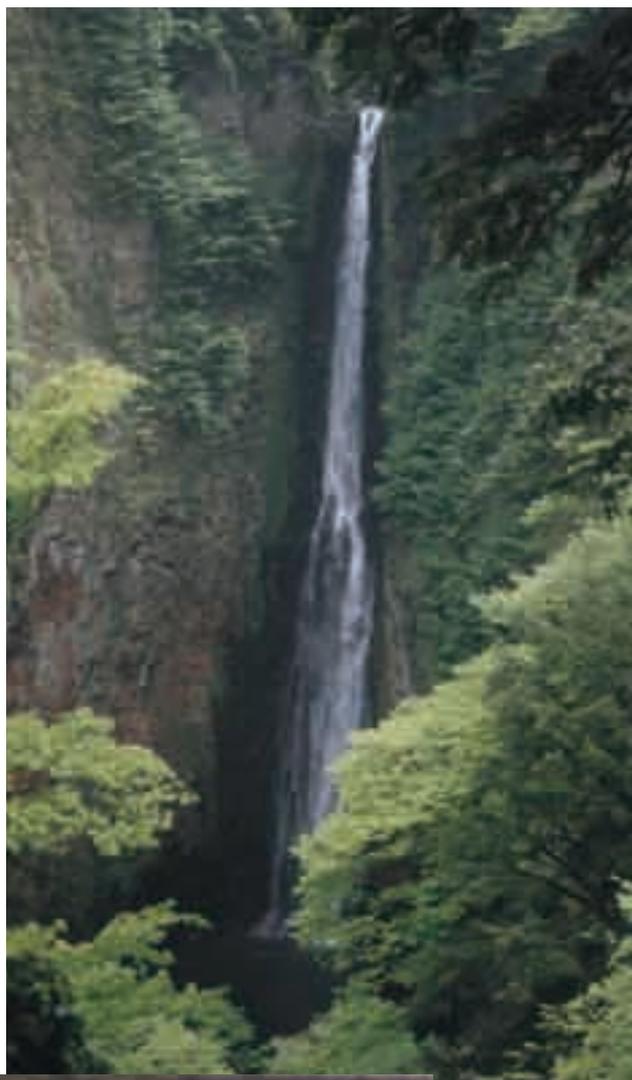


祖母山の麓、緒方川中流の田園地帯の中に位置し、落差二〇M幅一二〇Mの馬蹄形をした滝である。九州のナイアガラと称される。当日は水量が少なかったが滝幅いっぱい流れ落ちる様は豪快である。公園や遊歩道が整備され滝を正面から望める吊り橋もあり情緒ある景観が楽しめる。



二〇〇三年 四月二九日
行程 一km
総計 四二、六四六km

〔93〕 震動の滝 (大分県)



九重連山の麓、白水川の支流・鳴子川溪谷にかかる八三Mの落差の滝である。垂直の岩壁を凄まじく流れ落ちる音は地を振動させる程

の轟音を立てることからその名が付いたという。滝近くへの遊歩道は通行止めとなり、対岸の観瀑台からの眺めとなった。

二〇〇三年 四月二十九日
行程 三 km
総計 四二・六四九 km



八三 m

〔94〕 西椎屋の滝（大分県）

八三 m



玖珠町の椎屋耶馬溪の中の
恵良川に位置し日出生ダムの
下流にある落差八三Mの滝で
ある。

近くの東椎屋の滝とともに
宇佐の二大瀑布と呼ばれてい
る。観瀑台は二箇所あり、駐

車場から少し下がった上部か
らの観瀑とそこから急坂を約
二〇分下り、滝の正面での観
瀑となる。

岩壁をV字形に切られたよ
うな落口からところ狭しと一気
に流れ落ちる様は豪快である。

豪快に水しぶきを立てて流
れる中で、右岸に白いロープ
を置いたように筋の滝が出来
る光景が印象に残った。

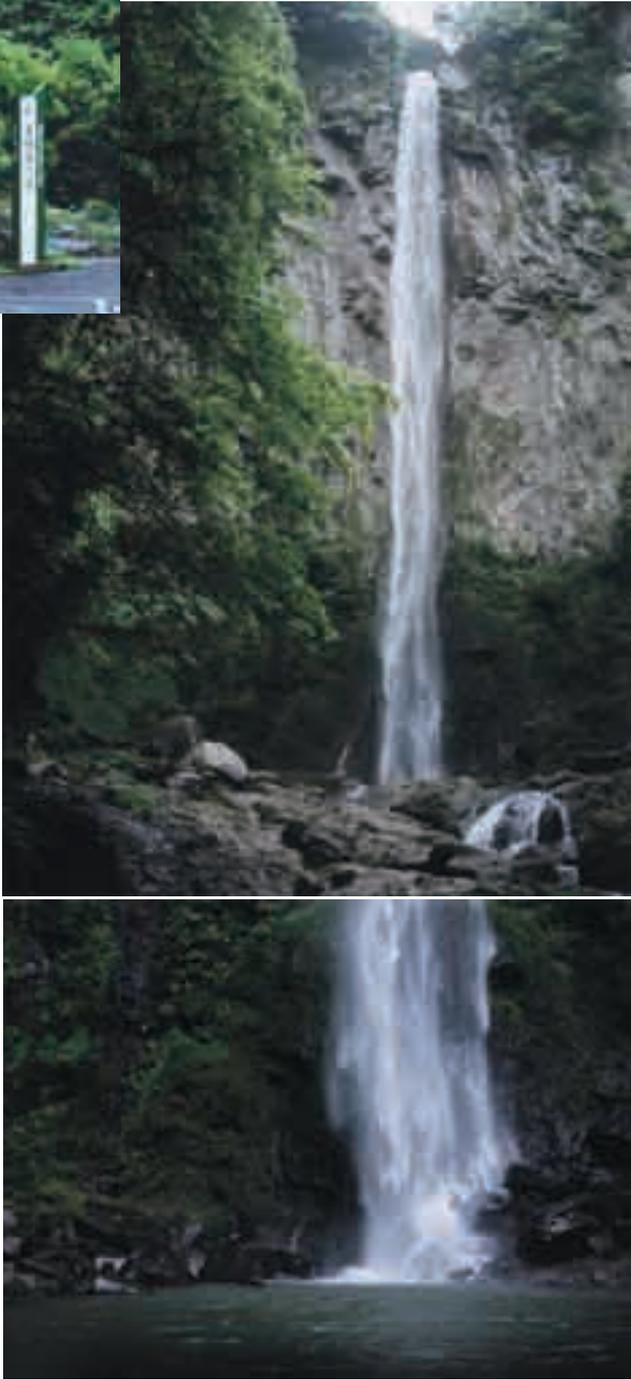
二〇〇三年 四月二九日
行程 一 km
総計 四二、六五〇 km



〔95〕 東椎屋の滝（大分県）



八五m



椎屋耶馬溪内の津房川上流にかかるとこの滝のある町の名は安(心院町(あじむまち))と読む。

高さ八五Mから大絶壁を流

れ落ちる様は樹々の緑に包まれて雄大な滝である。

滝壺は広くマイナスイオンを沢山満ちていて、落ち着いた雰囲気をかもし出している。

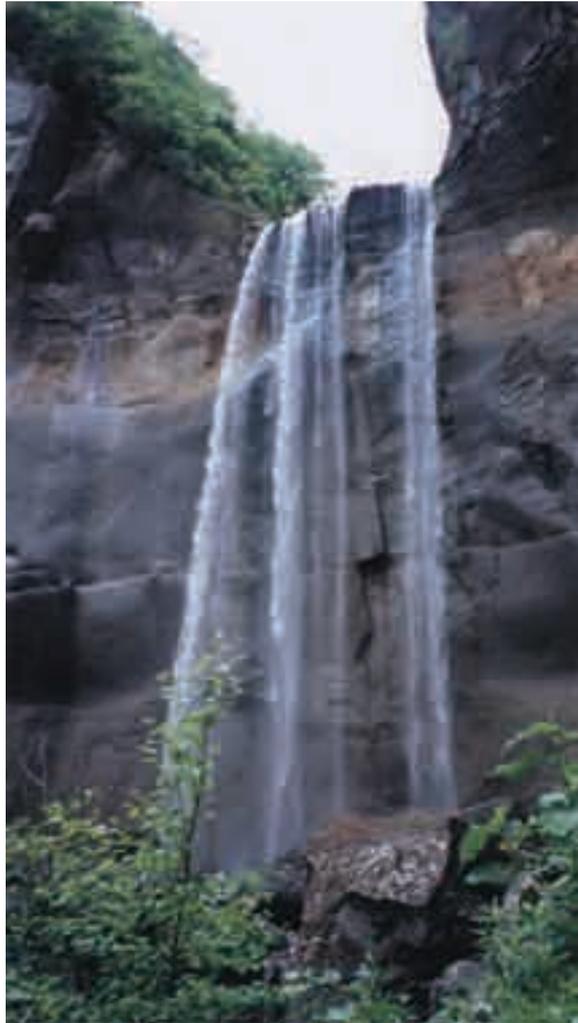
二〇〇三年 四月三〇日
行程 二km
総計 四二、六五二km

2003 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
84	4	26	観音の滝	佐賀県	七山村、七山耶馬溪		2,000		1,044	2	3,046
85	4	"	見帰りの滝	佐賀県	相知町、巖木川支流					5	5
86	4	27	四十三万滝	熊本県	菊池町、菊池溪谷					4	4
87	4	"	数鹿流ヶ滝	熊本県	長陽村、阿蘇山黒川					1	1
88	4	"	梅檀轟の滝	熊本県	泉村、球磨川支流					2	2
89	4	28	真名井の滝	宮崎県	高千穂町、高千穂峡					1	1
90	4	"	矢研の滝	宮崎県	都農町、名貫川上流					4	4
91	4	29	行藤の滝	宮崎県	延岡市、大瀬川支流					4	4
92	4	"	原尻の滝	大分県	緒方町、緒方川					1	1
93	4	"	震動の滝	大分県	九重町、鳴子川溪谷					3	3
94	4	"	西椎屋の滝	大分県	玖珠村、椎谷耶馬溪					1	1
95	4	30	東椎屋の滝	大分県	安心院町、津房川					2	2
					2003年度計	0	2,000	0	1,044	30	3,074
					累 計						42,652

〔96〕 インクラの滝（北海道）

五〇m



白老町別々川の支流西別々川にかかる落差四四Mの滝である。

滝名の由来は当初、別々川の名前から付けられた別々の滝のようであったが、原生林

を切り出す時に、インクラインと呼ばれる施設があったことからこの名になったという。

滝入口の駐車場には、自然を生かす意味から遊歩道は作っていませんとの案内板があ

った。この地域も熊が出そう
な感じがしたので、いつも携
帯している熊除けベルと笛を
鳴らしての前進となった。ア
プローチはいつも心細い感じ
がする。

大岩壁の構える姿は大自然の迫力を感じ荘厳さを感じた。反面、流れが少なかつたせいか、大自然に包まれて閑静で心の落ち着ける滝にも感じた。

二〇〇四年 六月一九日
行程 三、八三六km
総計 四六、四八八km

〔97〕 飛竜賀老の滝（北海道）

七〇m



島牧村・千走川の上流にかかる高さ七〇Mの滝は幅が三五Mもある。水量が多くこの幅で落ちる滝はさすがに圧巻であった。

滝の面する方向が東面で朝の虹がきれいと言っていたので、朝は早くから待機していたが雨に降られてしまった。いい写真が撮れないかと思っただが霧に包まれた淡い滝もまた美滝である。

二〇〇四年 六月二〇日
行程 三km
総計 四六、四九一km

〔98〕 羽衣の滝（北海道）

二七〇m



旭岳を源とする東川町忠別
川天人峽温泉の近くに位置す
る、落差二七〇Mを七段にわ
たり断崖の岩肌をつたい落ち
る。岩肌の細かい滝の流れは、
天女の羽衣を連想されること
からこの名が付いたという。

うであり、写真で見ると
よりはるかに大自然の
雄大さを見せ付けてく
れた。

天空彼方から流れる水は右
に左にと羽衣をなびかせたよ

二〇〇四年 六月二一日
行程 八 km
総計 四六、四九九 km



〔99〕 流星・銀河の滝（北海道）

110m

上川町石狩川上流で層雲峡 ○M。

温泉を抱く位置にある。石狩川支流滝ノ沢にかかる・銀河の滝の落差は一二〇M、赤岳沢川にかかる・流星の滝は九

〇M。 駐車場からは両方の滝を同時に会すことは出来ないが、対山の急な坂道を登っていけば同時に眺めることの出来る双瀑台へ行くことが出来る。



二条の滝を眼下に入れ独り占めに出来るその眺めは最高である。

百瀑踏破も後一つかと思うとようやくここまで来た、ようこそこれまで継続できたと自分に称賛し、迷惑をかけた家族に感謝をしたい。

二〇〇四年 六月二日

行程 二km

総計 四六、五〇一km

〔100〕 オシンコシンの滝（北海道）

八〇m

知床半島斜里町の国道三三四号の脇に有り、国道の

を大水量が滑り落ちる豪快な滝である。

反対側はオホーツク海である。

滝撮影最後の一滴を迎えた。

遠音別岳を水源とするチャ

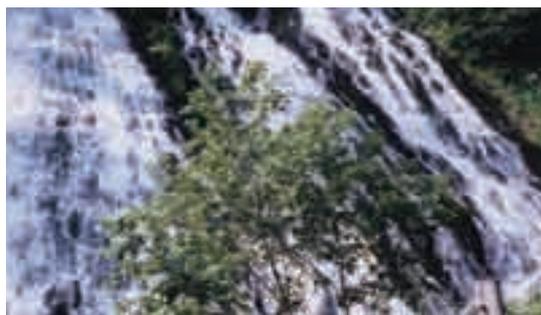
記念の文字をTシャツにプ

ラッセナイ川にかかり、落口

ントし、百瀑目のセレモニー

から二筋に分かれる分岐瀑である。落差五〇Mで斜めの崖

とした。



二〇〇四年 六月二二日
行程 一km
総計 四六、五〇二km

2004 年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
96	6	19	インクラの滝	北海道	白老町、別々川			1,502	2,331	3	3,836
97	6	20	飛竜賀老の滝	北海道	島牧町、千走川					3	3
98	6	21	羽衣の滝	北海道	東川町、忠別川					8	8
99	6	〃	流星・銀河の滝	北海道	上川町、層雲峡					2	2
100	6	22	オシンコシンの滝	北海道	斜里町,知床国立公園					1	1
					2004年度計	0	0	1,502	2,331	17	3,850
						飛行機	電車	船	車	徒歩	計
					総計	6,200	7,160	1,752	30,859	531	46,502
					累計						46,502



鹿との出会い

.....

山梨県北杜市 北精神ヶ滝のアプローチにて

「私」 鹿くん おはよう

「鹿くん」
・・・

「私」 鹿くん、そこで何をしているの！

「鹿くん」 急な斜面に来てしまい、身動きがとれないの！

「私」 チョット、写真1枚撮らせてもらっていい！

「鹿くん」 いいけど、早く撮ってよ

「私」 いい写真撮れたよ

「鹿くん」 ありがとう

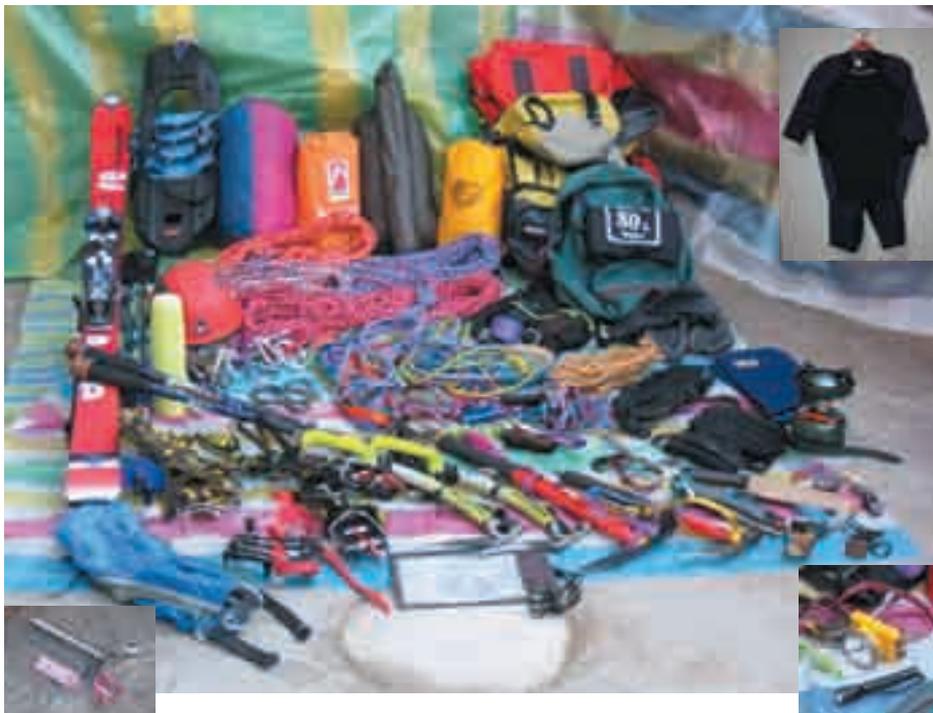
「私」 気を付けて、山に帰るんだよ。

「鹿くん」 そちらも気を付けて行ってね

鹿くんは私の滝へのアプローチを見送ってくれた。



滝見行 に使用する用具



滝見行に使用する用具

- ① スキー・ストック
- ② スノーシュー
- ③ ヘルメット
- ④ テルモス
- ⑤ Wストック
- ⑥ スパツ
- ⑦ アイゼン(6・12・13本爪)
- ⑧ アックス(アイス用、一般用、沢用)アイススクリューとV字スレックド用フック
- ⑨ 地図
- ⑩ シュラフ
- ⑪ マット
- ⑫ テント
- ⑬ レインウェア
- ⑭ ロープ
- ⑮ ハーネス
- ⑯ スリング
- ⑰ カラビナ、ピトン
- ⑱ 8環
- ⑲ アッセンション(登高器)
- ⑳ シャント(懸垂下降用器具)
- ㉑ クリフハンガー
- ㉒ ザック(大・中・小)
- ㉓ 防水スタッフ
- ㉔ 地下タビ

- ㉕ わらじ
- ㉖ タビ用フェルト
- ㉗ 沢用スパツ
- ㉘ ニーカパー
- ㉙ コンロ
- ㉚ ノコギリ、ナタ
- ㉛ コンパス、ナイフ
- ㉜ 熊除け用ベル・笛
- ㉝ 懐中電灯(大・小)
- ㉞ ウエットスーツ

スキーの腕前は全日本スキー連盟の指導員の資格をもっているが、ロッククライミングやアイスクライミングは初級者の域である。ガイドの特訓を受けて山に入る以外はほとんど単独行であり、天候や体調の条件が100%揃い、ここは「行ける」という実力が100%以上発揮できると思えば、その場所ではその前へは行かないことにしている。



左側 ダイニングキッチン

右側 応接室&寝室

滝見行を始めてから、この車で3台目である。九州地区のレンタカーを使用した以外、マイカーで全国を回った。そして、ほとんど宿をとらず、車とテントで宿泊をとった。

- ① テーブル
- ② コンロ
- ③ 調味料ボックス
- ④ ファーストエイドキットボックス
- ⑤ クーラーボックス
- ⑥ シュラフ
- ⑦ 枕
- ⑧ マット
- ⑨ 日帰り温泉用セット(石鹸・シャンプー等)

行程	観瀑年	月日	滝名	都道府県	落差m
一	一九九〇	七八	丸神の滝	埼玉県	七六
二		八二	袋田の滝	茨城県	一二〇
三		八二	華厳の滝	栃木県	九七
四		八二	霧降の滝	栃木県	七五
五		九二	布引の滝	兵庫県	四三
六		九九	弘沢の滝	東京都	六〇
七		一〇二	七つ釜五段の滝	山梨県	五〇
八		一〇	北精進ヶ滝	山梨県	二二一
九		一〇二	仙我滝	山梨県	三〇
一〇		一〇二	吹割の滝	群馬県	七
一一		一〇二	棚下不動の滝	群馬県	三七
一二		一一三	箕面の滝	大阪府	三三
一三	一九九一	三二六	酒水の滝	神奈川県	六九
一四		七二〇	早戸大滝	神奈川県	五〇
一五		一〇二四	三階の滝	宮城県	一八一
一六		一〇	秋保大滝	宮城県	五五
一七		一〇二六	銚子ヶ滝	福島県	四八
一八		一〇	乙字ヶ滝	福島県	六
一九		一一一	阿寺の七滝	愛知県	六四
二〇		一一二	浄蓮の滝	静岡県	二五
二一		一一一	常布の滝	群馬県	五〇
二二		二二七	養老の滝	岐阜県	三〇
二三	一九九二	四二二	赤目四十八滝	三重県	一五
二四		四三〇	安倍の大滝	静岡県	八〇
二五		四	白糸・音止めの滝	静岡県	二〇

行程	観瀑年	月日	滝名	都道府県	落差m
二六		五一	三本滝	長野県	二〇〇
二七		五	田立の滝	長野県	九六
二八		六二二	米子大瀑布	長野県	八五
二九		六	苗名滝	新潟県	五五
三〇		六一三	惣滝	新潟県	八〇
三一		六一四	称名滝	富山県	二五〇
三二		六一五	平湯大滝	岐阜県	六四
三三		二二	滑川大滝	山形県	八〇
三四		二二	三条の滝	福島県	一〇〇
三五	一九九五	五二四	アシリベツの滝	北海道	三〇
三六		八一七	安の滝	秋田県	九〇
三七		八一八	不動の滝	岩手県	一五
三八		八	七滝	秋田県	六〇
三九		八一九	茶釜の滝	秋田県	一〇〇
四〇	一九九六	三二二	龍双ヶ滝	福井県	六〇
四一		三	阿弥陀ヶ滝	岐阜県	六〇
四二		三二二	根尾の滝	岐阜県	三二
四三		四二七	八草の滝	和歌山県	二二
四四		四	桑ノ木の滝	和歌山県	二一
四五		四二八	那智の滝	和歌山県	一三三
四六		四	布引の滝	三重県	五三
四七		四二九	笹の滝	奈良県	三〇
四八		四	不動七重滝	奈良県	一〇〇
四九		四三〇	双門の滝	奈良県	七〇
五〇		五二	中の滝	奈良県	一五〇

行程	観瀑年	月日	滝名	都道府県	落差m
五一		五三	七つ釜滝	三重県	一五〇
五二		一〇二二	寂地峡五竜の滝	山口県	二〇〇
五三		二二	鈴ヶ滝	新潟県	五五
五四		二二	七ツ滝	山形県	九〇
五五		二二	白糸の滝	山形県	一二三
五六		二	法体の滝	秋田県	一〇〇
五七	一九九八	四四	原不動滝	兵庫県	八八
五八		四	天滝	兵庫県	九八
五九		四	猿尾滝	兵庫県	六〇
六〇		四五	雨滝	鳥取県	四〇
六一		四	神庭の滝	岡山県	一一〇
六二		四三〇	金引の滝	京都府	四〇
六三		五一	八ツ淵の滝	滋賀県	三〇
六四		五二	姥ヶ滝	石川県	一一一
六五	一九九九	八八	くろくまの滝	青森県	八五
六六		八九	松見の滝	青森県	九〇
六七	二〇〇〇	八二四	マリユドウウの滝	沖縄県	二〇
六八		八一五	龍門滝	鹿児島県	四六
六九		八	関之尾滝	宮崎県	一八
七〇		八一六	鹿目の滝	熊本県	三六
七一		八一六	大川の滝	鹿児島県	八八
七二	二〇〇二	八二二	常清滝	広島県	二二六
七三		八	龍頭八重滝	島根県	四〇
七四		八一三	大山滝	鳥取県	三七
七五		八一四	壇鏡の滝	島根県	五〇

行程	観瀑年	月日	滝名	都道府県	落差m
七六	二〇〇二	八二	雨乞の滝	徳島県	四五
七七		八	大釜の滝	徳島県	二〇
七八		八	轟九十九滝	徳島県	五八
七九		八二	轟の滝	高知県	八二
八〇		八	龍王の滝	高知県	一六
八一		八一三	雪輪の滝	愛媛県	八〇
八二		八	大樽の滝	高知県	三二
八三		八一五	御来光の滝	愛媛県	七二
八四	二〇〇三	四二六	観音の滝	佐賀県	四五
八五		四	見歸りの滝	佐賀県	一〇〇
八六		四二七	四十三万滝	熊本県	二五
八七		四	数鹿流ヶ滝	熊本県	六〇
八八		四	栴檀轟の滝	熊本県	七〇
八九		四二八	真名井の滝	宮崎県	一七
九〇		四	矢研の滝	宮崎県	七三
九一		四二九	行隣の滝	宮崎県	七七
九二		四	原尻の滝	大分県	二〇
九三		四	震動の滝	大分県	八三
九四		四	西椎屋の滝	大分県	八三
九五		四三〇	東椎屋の滝	大分県	八五
九六	二〇〇四	六一九	インクラの滝	北海道	五〇
九七		六二〇	飛竜賀老の滝	北海道	七〇
九八		六二二	羽衣の滝	北海道	二七〇
九九		六	流星・銀河の滝	北海道	一一〇
百		六二三	オシンコシンの滝	北海道	八〇

購入した文献

滝撮影 技術書・写真集

- 1 日本の名瀑
グリーンルネッサンス
東京出版
- 2 日本の滝200選
中西栄一
加藤庸二
JTB
- 3 日本滝めぐり
加藤庸二
成美堂出版
- 4 滝と水のある風景の撮り方
加藤庸二
学研
- 5 四季の写真特集 水の風景の撮影術
学研
- 6 旅・写真 名瀑紀行 ①清涼の滝
(株)ニューズ出版
②雄渾の滝
(株)ニューズ出版
- 7 佳境日本秘境と仙境の旅 東日本編
日本通信教育連盟
西日本編
日本通信教育連盟
- 8 日本の滝1000 遊楽の滝
学研
和みの滝
学研
幽遠の滝
学研
- 9 日本の幻の滝
志水哲也
山と溪谷社
- 10 日本の滝一〇〇選
グリーンルネッサンス事務局
他
- 11 日本の滝
永瀬嘉平
講談社

山岳関係 技術書・案内書

- 1 実戦登山セミナー
監修 今井通子
山と溪谷社
- 2 沢登り読本
茂木完治・手島亨
東京新聞出版社
- 3 BEERPALEバックパッキング入門
小学館
- 4 アウトドア・ロープワーク
羽根田治
山と溪谷社
- 5 アウトドア危険・有害生物
学研
- 6 ひとりぼっちの山歩き
佐古清隆
山と溪谷社
- 7 岳人 特集…ぼくの単独行
東京新聞出版社
- 8 マタギに学ぶ登山技術
工藤隆雄
山と溪谷社
- 9 遊歩百山
森林書房
- 10 フリークライミングのススメ
北山真
山と溪谷社
- 11 空撮登山ガイド 立山剣薬師
山と溪谷社
- 12 奥多摩の谷 123ルート
山と溪谷社
- 13 大いなる山大いなる谷
志水哲也
白山書房
- 14 かくれ滝を旅する
永瀬嘉平
世界文化社
- 15 山と溪谷 特集…遭難する人しない人
山と溪谷社
- 16 アルパインクライミング
保科雅則
山と溪谷社
- 17 オールラウンドクライミング
廣川健太郎
山と溪谷社

世界の三大名瀑

日本の滝を巡り始めた時は、まさか、世界の滝を見に行くとは思ってもよらなかった。

二二番目に廻った岐阜県の養老の滝で、可愛い娘さんを連れられた夫婦に出会い、ご主人に「海外の滝は見たことがあるか」と聞かれたときも海外の滝には全く感心も無かった。日本の滝にのめり込んで行く内に、海外の滝も目に入り、ひよんな事からカナダに行くこととなり、ナイアガラの滝を見てしまった。さすがに凄かった。ライトアップをしていたので、寝るのを惜しんで写真に修めた。

次に、世界の三大名瀑の二つ目・イグアスの滝を見に行った。

ここまで来たら、世界の三大名瀑は死ぬまでに全てを見てやるぞ！となってしまった。

ナイアガラの滝

渡航年月…一九九八年八月

所要日数…九日間

川名…カナダ、アメリカに接するナイアガラ川。カナダ滝とアメリカ滝がある。

カナダ滝…落差五四M 滝幅六七〇M

世界三大名瀑は言葉に表せない程の凄さと、スケールの大きさには驚きである。

滝の落口で流れ落ちる滝を見ることができる。流れ落ちるその透き通った水の蒼さを見ていると吸い込まれそうな感じがした。

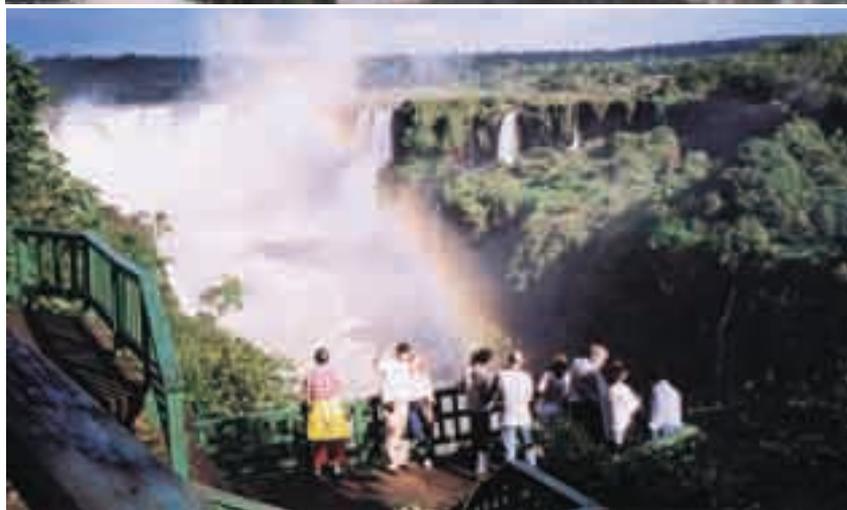
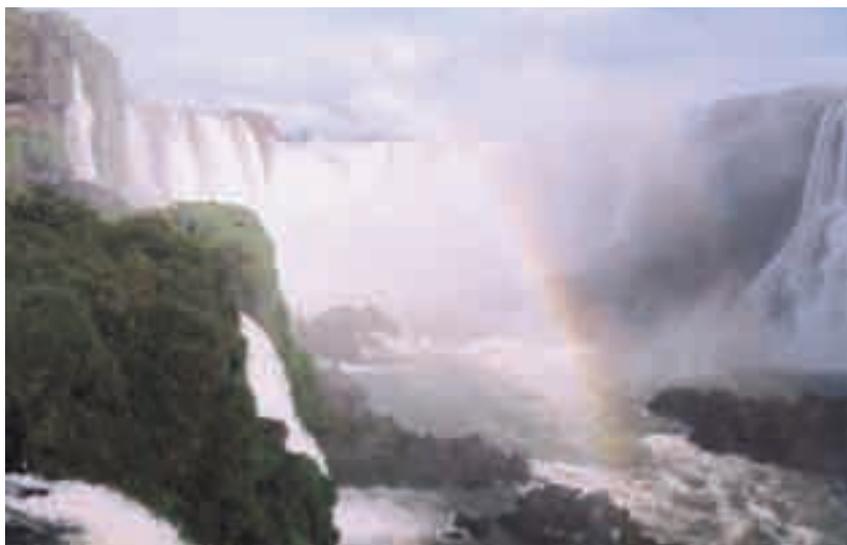


カナダ滝…落差五四M 滝幅六七〇M



イグアスの滝

落差八〇M 滝幅四、〇〇〇M



渡航年月…二〇〇五年六月
所要日数…八日間

川名…ブラジル、アルゼンチン、パラグアイにまたがるイグアス川。

滝…落差八〇M 滝幅四、〇〇〇M

ブラジル側の滝では虹が私たちに歓迎してくれた。虹の入った写真はパソコンの壁紙になっている。

アルゼンチン側では国鳥のトウカーノ・Tucano(別名オニオオハシ)が出迎えてくれた。

そして、ハチドリや八の字チョウ(正式名ウラモジタテハ)が手の届くところまで来てくれて、ポーズをとってくれた。





ヴィクトリアの滝

落差一〇八M 滝幅一、七〇〇M

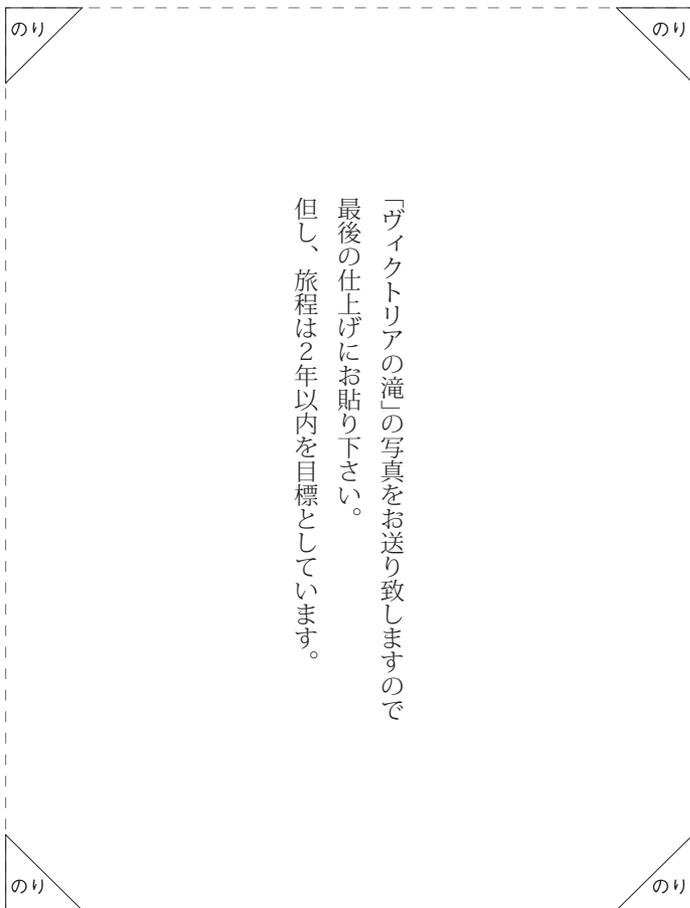
渡航年月：○○○○年○○月

所要日数：○○日間

川名：アフリカ・ザンビア、ジンバブエ、の国境ザンベジ川。

滝：落差一〇八M 滝幅一、七〇〇M

「ヴィクトリアの滝」の写真をお送り致しますので最後の仕上げにお貼り下さい。
但し、旅程は2年以内を目標としています。



あとがき

滝見行を始めるに当たり、写真集と地図を見ていると、「華厳の滝」「那智の滝」のように駐車場からサンダルで行ける所もあれば、登山スタイルの完全装備で行かなければならない所もあり、登山道が無ければ沢登りのルートで行かなければならない所もある。

滝まで辿り着かなければ、写真撮影もあつたものではない。百選を廻ろうとするならば、撮影の練習だけでなく山へ入る訓練も必要と思い、滝見行開始と併行して、山行のトレーニングを開始した。

次田経雄登山教室「黒部川、下の廊下」で山の歩き方、堀田弘司（今は故人）岩登り教室では富士山の見える三つ峠で

ロッククライミング、神奈川県立登山訓練所（丹沢山）で沢登り教室、冬山登山（スポーツ店及び山岳旅行会社主催）の一部訓練も受けた。

さらに日頃の訓練は会社のワンゲル部に所属し、日光白根山や安達太良山（福島県）などへの山行で足腰を鍛えた。今は、会社のワンゲル部に参加をしたり、森てつやガイドについて、夏は沢登りに冬は水瀑登りに特訓を受けているところである。

訓練を受けたお陰と山への感謝の念を持つて入山していたことで、無事にここまで来ることが出来た。そして、うさぎ・猿・鹿・りす・キタキ

ツネなどを見ることができたが、熊にはお会いせず、ホツとしてゐる。

一方、写真撮影の腕前も順調にアップしたと自負している。

思えば途中三年ほど滝を見に行けなかつた年はあつたが日本の百名瀑は足掛け十五年という長い年月がかかつた。滝見行の全走破距離は見当の部分もあるが四六・五〇二kmとなつた。

この距離は地球一周を上回る距離となる。よくも走るに走つたものだといながら感心をし、よくも挫折せずに継続できたものと感慨無量である。

百を巡り終えたら祝杯をあげて一区切りと思つた。そして春と冬に行つたけれど秋はまだとか、滝壺まで踏破してなかつた所は再トライなど、身体の動く限り、一生続けるような気がしている。

これからも春夏秋冬、自然と共生する豊かな心を求めて、神聖な滝見行を続けていくつもりである。

皆様も滝のイオンを浴び、大自然の中に身を置いて、ゆったりされることを是非お勧めします。



平成二十年 六月 吉日



作ってみたい方は
ここをクリック!

お気軽にメール下さい